

平成14 (2002) 年度

新潟市埋蔵文化財調査年報

新潟市埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は、新潟市埋蔵文化財センターが平成14（2002）年度に実施した事業の概要についてまとめたものである。
- 2 本書の作成作業は埋蔵文化財センター職員の廣野耕造・諫山えりか・朝岡政康（以上文化財専門員）・森良子・土佐夕美子（以上嘱託）が分担し、編集を廣野が担当した。ただしⅢ章については渡邊ますみ（総務局国際文化部歴史文化課企画・文化財係主査）が執筆した。
- 3 本書で使用した写真は全て埋蔵文化財センター職員が撮影した。
- 4 本書に掲載した調査地位置図などは原則として2,500分の1国土基本図を使用している。
- 5 各種調査に際しては関係者各位に多大な御理解と御協力、また有益な御指導を得ている。ここに記して厚くお礼申し上げます。

目 次

I 新潟市埋蔵文化財センターの概要……………	1	4 整理作業……………	22
1 沿革		(1) 東田遺跡	
2 施設の概要		(2) 出土品整理・活用事業	
3 機構について		5 出土遺物保存処理……………	24
II 平成14(2002)年度事業……………	4	(1) 概要	
1 概要……………	4	(2) 今年度の業務内容	
(1) 予算		(3) 今後の展望	
(2) 発掘調査等		6 普及活動……………	25
(3) 分布調査		(1) にいがた歴史塾	
(4) 整理作業		(2) その他の普及活動	
(5) 出土遺物保存処理		III 的場遺跡 昭和45(1970)年調査の出土遺物……	27
(6) 普及活動		IV 受領図書一覧……………	40
(7) その他		抄録	
2 発掘調査等……………	6		
(1) 緒立B遺跡範囲確認調査……………	6		
(2) 内野戸中才宅地開発事業予定地試掘調査……	8		
(3) 病院脇遺跡範囲確認調査……………	10		
(4) 山木戸遺跡立会調査……………	12		
(5) 新潟市郷土資料館			
(重要文化財 旧新潟税関庁舎)敷地内			
収蔵庫撤去作業に伴う立会調査……………	13		
3 分布調査……………	14		
(1) 調査の目的と方法……………	14		
(2) 赤塚地区調査結果の概要……………	14		
(3) 黒埼地区調査結果の概要……………	15		
(4) 阿賀野川右岸調査結果の概要……………	15		
(5) 新発見遺跡について……………	16		

I 新潟市埋蔵文化財センターの概要

1 沿革

新潟市埋蔵文化財センター（以下「センター」）は、主として埋蔵文化財の保存と活用を図り、市民の埋蔵文化財に対する認識を深め、市民文化の向上に資することを目的として、平成7（1995）年4月に機関設置された。建物は平成5（1993）年度をもって廃校となった新潟市立太郎代小学校の校舎を改修して使用している。主な沿革は以下のとおりである。

平成7年4月1日：新潟市埋蔵文化財センター条例施行。当初の職員体制は所長（嘱託）1、文化財専門員2、嘱託2、臨時職員2であった。

平成7年6月2日：開所式開催（出席者65名）

平成11年4月1日：組織改正に伴い、所管課が教育委員会生涯学習部生涯学習課から市長部局の総務局国際文化部歴史文化課（以下「歴史文課」）に変わるとともに、教育長の所管事務である埋蔵文化財保護を補助執行することとなる（根拠法令：地方自治法第180条の7）。

2 施設の概要

本 体：鉄筋コンクリート3階建（1,622.98㎡）

主な用途：事務室（庶務などの事務を行う。63.36㎡）

整理室（出土品の整理などを行う。63.36㎡）

収蔵室（出土品を収蔵する。678.67㎡）

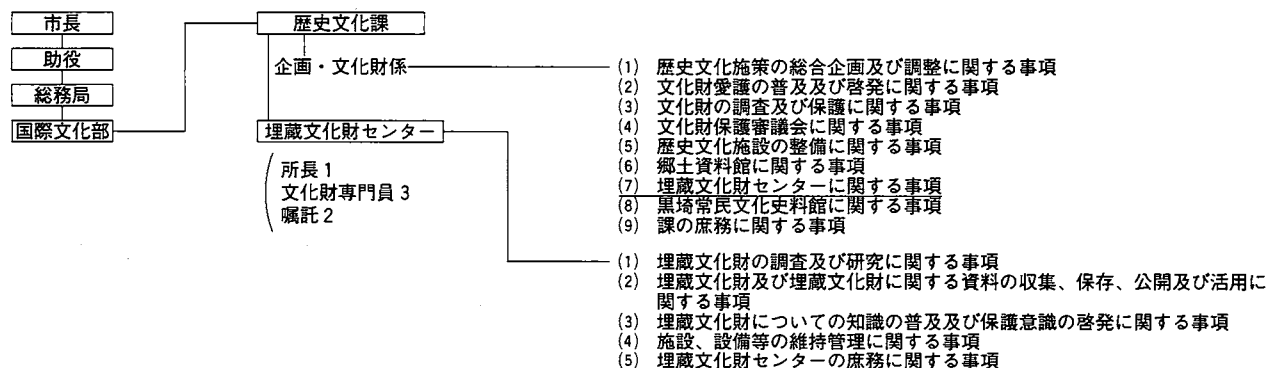
図面・写真庫（図面・写真を収蔵、写真撮影も行う。31.68㎡）

展示室（主な出土品を展示する。31.68㎡）

倉庫（調査機材等を収納するプレハブ。2棟合計105.13㎡）

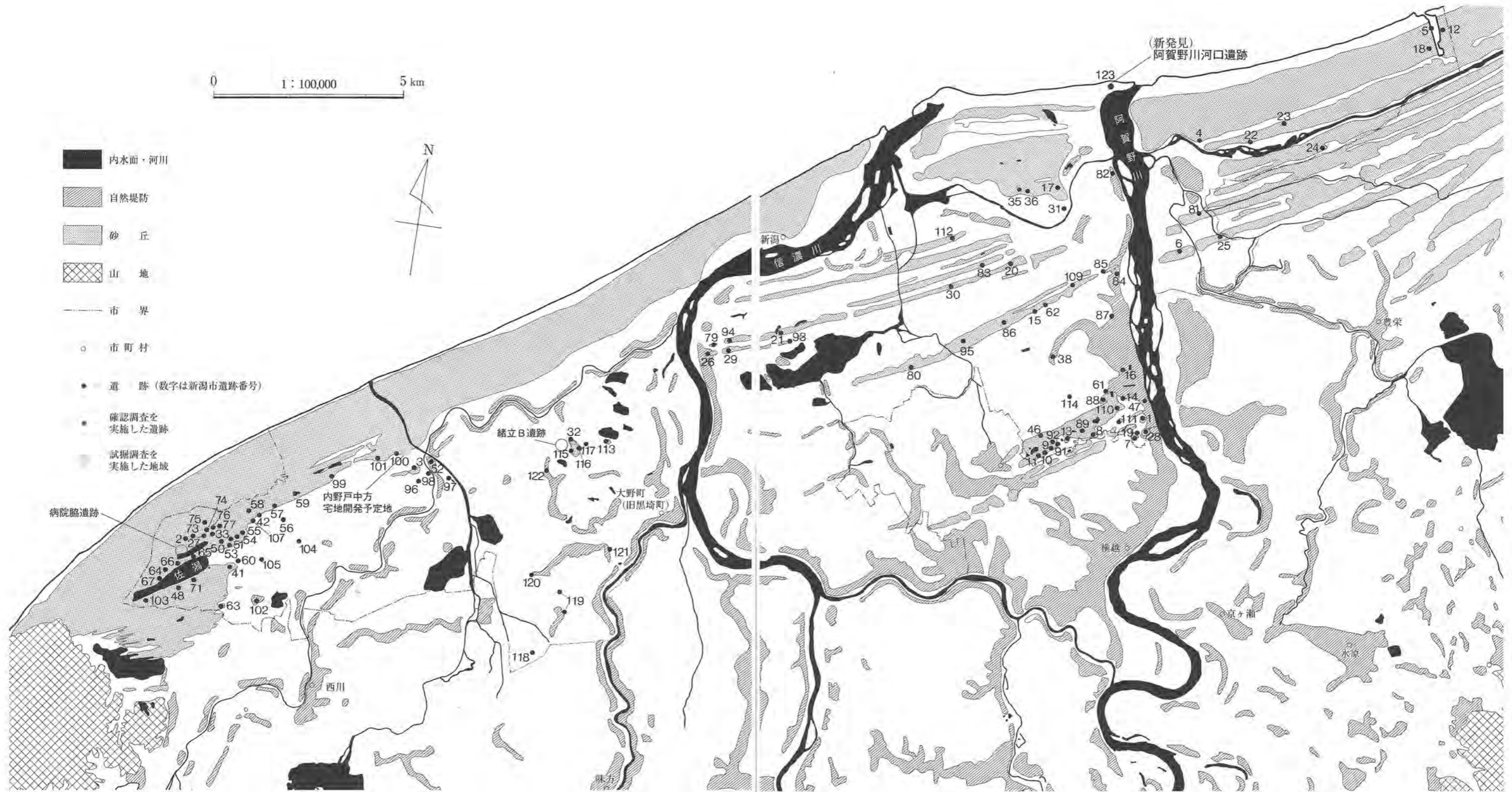
3 機構について

概略は下図のとおりである。



第1図 機構図

なお、埋蔵文化財に係る開発事業に関しては、窓口を企画・文化財係に置いて遺跡の有無に関する問い合わせなどに対応している。また、試掘や範囲確認調査が予想される事案に関してはセンターが引き継いで担当する。関係各機関等と調整を図る必要がある場合、企画・文化財係とセンターとが適宜共同で協議・調整にあたっている。



第2図 新潟市周辺の地形と遺跡

遺跡No	名称	時代	遺跡No	名称	時代	遺跡No	名称	時代	遺跡No	名称	時代	遺跡No	名称	時代	遺跡No	名称	時代
1	甲山	縄文・古墳・奈良・平安	20	寺山	平安	39	庚塚	平安	58	木山墓所	縄文	96	沢山田	中世	115	橋立(B)	縄文・古墳・奈良・平安
2	荒原A	縄文	21	巖仁山	平安・中世	40	観音塚	平安	59	尾山池	鎌倉・室町	97	高山前田	中世	116	橋立(A)	古墳・奈良・平安
3	六地山	弥生・奈良・平安・鎌倉	22	向山	平安	41	大戦	縄文・古墳・室町	60	観音原	縄文	98	高山西	中世	117	橋立(C)	縄文・古墳・奈良・平安
4	神谷内	奈良・平安	23	横山	平安	42	木山	平安・鎌倉	61	直り山B	平安	99	道下	中世	118	己ノ明	南北朝・室町
5	東港太郎代	奈良・平安	24	上舟橋	平安	43	赤塚	古墳	62	狭々馬場B	鎌倉～江戸	100	内野海蔵A	中世	119	祝遊堂	平安・南北朝～室町
6	新橋	奈良・平安	25	築上山	平安	44	土塚	不明	63	狭田	平安・中世	101	内野海蔵B	中世	120	木場城	中世
7	野山前	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	26	上中沢	中世	45	大敷の塚	平安	64	上谷内A	平安	102	藤蔵新田	鎌倉・室町	121	大森	近世
8	宮前谷	奈良・平安	27	赤塚神社	平安	46	北山	平安	65	柳院蔵	平安	103	藤村	平安	122	与左工門屋敷	近世
9	在七山	奈良・平安	28	城山	縄文・古墳・平安・鎌倉	47	横山石仏	室町	66	上谷内B	平安	104	北山崎宮前山土地	中世	123	阿賀野川河口	縄文・古墳・平安・中世 (平成14年度調査)
10	金塚山	縄文・奈良・平安	29	地蔵山	鎌倉・室町	48	北浦原A	縄文・平安	67	沼	平安	105	山崎崎中込山土地	中世			
11	前山	奈良・平安	30	竹尾	室町	49	石ナケ山	不明	68	欠香、No.48内		106	木山古鏡田土地	中世			
12	川山	奈良・平安・鎌倉・江戸	31	古屋敷	奈良・平安・室町・江戸	50	聖敷部	弥生・奈良・平安	69	欠香、No.48内		107	(ヤマサキ)No.55内	中世			
13	丸山	平安	32	橋立城跡	奈良・平安・中世	51	屋敷跡	弥生・平安	70	欠香、No.71内		108	南浦原	縄文・奈良・平安・中世			
14	直り山A	平安	33	神山	縄文・弥生	52	高野山	不明	71	北浦原B	平安	109	関山の石仏	中世			
15	狭々馬場A	平安・室町	34	聖ノ木花	平安	53	前田	弥生・平安・鎌倉・室町・江戸	72	欠香、No.71内		110	松山	中世			
16	大満	平安	35	宮前	平安	54	茶畑	縄文・平安・中世	73	熊所B	平安	111	松山向山	平安			
17	原浦郷	平安	36	湖池	平安	55	ヤマサキ	縄文・弥生・中世	74	ツル子A	平安	112	山本戸	古墳・奈良・平安・中世			
18	カン化学前	奈良・平安	37	青山	平安	56	伝念野毛	鎌倉・室町	75	吹荒地	中世・近世?	113	的場	縄文・中世			
19	神明社裏	平安	38	西野	平安	57	炭倉根	奈良・室町	76	ツル子B	平安	114	東園	縄文・弥生・古墳			

表1 新潟市の遺跡 (平成15年2月28日現在)

Ⅱ 平成14（2002）年度事業

1 概要

(1) 予算

平成14年度埋蔵文化財センター関連の予算及び決算見込み額については表2に示した。

事業名	予算額	決算見込額	増減	特定財源ほか	備考
管理事務	6,661,000	6,087,000	▲ 574,000		
施設整備	1,400,000	1,470,000	70,000		消火栓用ポンプの設置ほか
市内遺跡範囲等確認調査	5,200,600	2,901,000	▲ 2,299,600	文部科学省補助対象経費2,373,000円のうち 国庫補助1,186,000円（50%） 県費補助 593,000円（25%）	
出土遺物保存処理	2,440,000	2,394,000	▲ 46,000	文部科学省補助対象経費2,373,648円のうち 国庫補助1,186,000円（50%） 県費補助 593,000円（25%）	
出土品整理・活用	12,627,000	12,627,000	0	新潟県緊急地域雇用対策基金より 12,600,000円（100%）	黒埼地区の埋蔵文化財整理費も含む （市単費）
市場周辺遺跡発掘調査	11,000,000	11,000,000	0		東園遺跡の整理（土木企画課予算）

表2 センター関連事業の予算及び決算見込み額

(2) 発掘調査等

平成14年度は13年度に引き続き本格発掘調査がなく、開発事業に対応するものとしては試掘・範囲確認調査及び立会い調査を実施した。詳しくは「2 発掘調査等」及び表3に記した。また、調査地の位置や周辺の状況については第2図・表1及び各調査の項を参照されたい。なお、鳥屋野遺跡確認調査については日程が年度末であったため本書に詳細を掲載できなかった。

(3) 分布調査

市内遺跡範囲等確認調査事業の一環として、市内遺跡の分布調査を実施した。これは本年度から5箇年計画で、現地踏査による市内遺跡の現況把握や新遺跡発見を通じ、遺跡保護の基礎資料の整備を目指すものである。詳しくは「3 分布調査」に記した。

(4) 整理作業

東園遺跡（平成12（2000）年度発掘調査）の整理作業を実施した。昨年度と本年度の2箇年で作業を完了し、発掘調査報告書を刊行する。

その他の整理作業としては、大淵遺跡及び笹山前遺跡・神明社裏遺跡・城山遺跡について既存の調査データをデジタル化した。また、昨年度に引き続き緒立遺跡の出土品再整理を合わせて行った。詳細は「4 整理作業」に記した。

(5) 出土遺物保存処理

国・県の補助を得て、山木戸遺跡及び緒立遺跡（C地点）出土木製品の保存処理を外部業者に委託した。「5 出土遺物保存処理」に詳しく記した。

	遺跡名 (遺跡番号)・地名	原因	57条の2・ 3提出	県教委から の通知	58条の2	調査期間	調査結果及び 遺跡の取扱い
試掘 調査	内野戸中才地区	住宅等造成事業		H14. 4. 22	H14. 4. 16	H14. 4. 23~26	遺跡は認められない
確認 調査	緒立B遺跡 (115)	個人住宅建設	H14. 4. 1	H14. 7. 22	H14. 4. 15	H14. 4. 22	開発にあたっては問題なし
	病院脇遺跡 (65)	病院建設	H14. 6. 27	H14. 5. 7	H14. 7. 31	H14. 8. 5~7	遺物・遺構・遺物包含層は確認されなかった
	鳥屋野遺跡 (79)	保育園増改築	H14. 4. 5	H14. 5. 28	H15. 3. 17	H15. 3. 19	遺跡の範囲内とは認められない
立 会 い 調 査	岡山の石仏 (109)	下水道管布設	H14. 5. 10	H14. 5. 22		H14. 6. 4~5	
	岡山の石仏 (109)	道路工事(歩道工)	H14. 4. 19	H14. 5. 8		H14. 5. 31	
	北山遺跡 (46)	個人住宅建設	H14. 2. 8	H14. 4. 17		H14. 5. 16	
	猿ヶ馬場B遺跡 (62)	集合住宅建設	H14. 3. 5	H14. 5. 8		H14. 7. 2	
	茨曾根遺跡 (57)	道路改修	H14. 3. 27	H14. 5. 8		H14. 7. 5	
	木山遺跡 (42)	露天資材置場(漬物工場)	H14. 4. 11	H14. 5. 8		H14. 5. 8	
	寺山遺跡 (20)	店舗建設	H14. 4. 12	H14. 5. 8		H14. 5. 8	
	古屋敷遺跡 (31)	道路改良工事	H14. 4. 26	H13. 5. 28		H14. 6. 6	
	茨曾根遺跡 (57)	道路工事	H13. 8. 28	H14. 9. 11		H14. 7. 5	
	山木戸遺跡 (112)	個人住宅建設	H14. 7. 19	H14. 8. 6		H14. 7. 3	
	茗荷谷遺跡 (8)	道路改修	H14. 5. 20	H14. 6. 27		H14. 7. 5	
	親仁山遺跡 (21)	道路改修	H14. 7. 29	H14. 9. 1		H14. 9. 17	
	内野湯端A遺跡 (100)	個人住宅建設	H14. 9. 26	H14. 10. 15		H14. 10. 22	
	ヤマサキ遺跡 (55)	排水路改修	H14. 10. 4	H14. 10. 29		H15. 1. 30	
	築上山遺跡 (25)	社会福祉施設建設	H14. 10. 3	H14. 10. 29		H14. 11. 11	
	石仏山遺跡 (80)	下水道建設	H14. 10. 11	H14. 11. 8		H14. 11. 20	
	大淵遺跡 (16)	ガス本管理設	H14. 6. 20	H14. 7. 22		H14. 9. 12, 13, 26-10. 7	
	大墓遺跡 (121)	駐車場建設	H14. 10. 1	H15. 1. 6		H14. 9. 26, 10. 7, 9	
	六地山遺跡 (3)	道路改修	H14. 11. 27	H14. 8. 19		H15. 1. 11	
	城山遺跡 (28)	公園造成	H14. 6. 3	H14. 8. 19		H14. 5. 23	
六地山遺跡 (3)	道路舗装工事	H14. 7. 9	H14. 8. 19		H15. 2. 24		
郷土資料館	収蔵庫撤去				H14. 12. 6-7, H15. 2. 24-25		
六地山遺跡 (3)	道路改修	H14. 12. 25	H15. 1. 29		H15. 2. 24		
新 遺跡	阿賀野川河口遺跡 (123)	表面採集				H14. 5. 14	

表3 平成14年度 新潟市埋蔵文化財調査等一覧

(6) 普及活動

歴史文化課全体の事業である「にいがた歴史塾」の一環として、市民を対象に市内2ヶ所で展示会を実施した。また、市内小中学校の要請に応じて各種展示・講演を行った。「6 普及活動」に詳しく記した。

(7) その他

職員の資質向上や情報収集のため、先進地視察や各種研修会への出席も積極的に行った。各種会議への出席も含め、詳しくは表4のとおりである。

内容・開催地等	年月日	参加・出席	備考
五市中東西蒲埋蔵文化財担当者連絡会議 (横越町中央公民館)	H14. 4. 11	渡邊ますみ・廣野耕造・朝岡政康	
文化行政事務担当者研修会 (県庁)	H14. 5. 15	諫山えりか	主催：新潟県教育委員会
記念物保護行政担当者会議 (東京都港区三田)	H14. 5. 15	朝岡政康	主催：文化庁
新潟県博物館協議会学芸員特別研修会 (新潟県近代美術館)	H14. 6. 25~26	諫山えりか	主催：東京文化財研究所・新潟県博物館協議会
文化財保護審議会 (市役所)	H14. 7. 1	廣野耕造	主催：新潟市教育委員会
埋蔵文化財担当者実務研修 (神林村役場)	H14. 7. 31	諫山えりか・朝岡政康	主催：新潟県教育庁
文化財保護審議会 (市役所)	H14. 9. 27	所長・廣野耕造	主催：新潟市教育委員会
五市中東西蒲埋蔵文化財担当者連絡会議 (五泉市)	H14. 10. 11	渡邊ますみ・廣野耕造・朝岡政康	
県・市町村役割分担会議 (勤労福祉会館)	H14. 10. 28	廣野耕造	主催：新潟県教育庁
埋蔵文化財担当者実務 [報告書作成の基礎知識について研修] (㈱第一印刷所及び㈱プレスメダ)	H14. 12. 20	渡邊ますみ・朝岡政康	主催：新潟県教育庁
関東甲信越静地区埋蔵文化財担当職員共同研修協議会 (東京都新宿区)	H14. 11. 21~22	渡邊ますみ	主催：関東甲信越静地区埋蔵文化財担当職員共同研修協議会・東京都教育委員会
埋蔵文化財担当職員等講習会 (神奈川県横浜市)	H15. 1. 16~17	廣野耕造	主催：文化庁・神奈川県教育委員会
埋蔵文化財発掘技術者専門研修 [陶磁器調査課程] (奈良文化財研究所埋蔵文化財センター)	H15. 2. 20~26	渡邊ますみ	主催：独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所
埋蔵文化財担当専門職員研修会 (県庁)	H15. 2. 27~28	諫山えりか・朝岡政康・森 良子	主催：新潟県教育庁
県・市町村役割分担会議 (県庁)	H15. 2. 28	廣野耕造	主催：新潟県教育庁

表4 平成14年度 センター職員が参加・出席した研修・会議等一覧

2 発掘調査等

(1) 緒立^{おだて}B遺跡範囲確認調査

調査地：黒鳥字川根湯5355番1 調査面積：10.8㎡（調査対象面積673.0㎡の約1.6%）

調査期間：平成14年4月22日(月) 調査担当：渡邊ますみ・廣野耕造

遺跡の概要 緒立B遺跡は現在の緒立集落の西側に存在し、埋没砂丘上に立地している。早くも昭和32（1957）・昭和33（1958）の両年には、地元研究者を中心として結成された黒埼町郷土史研究会の手による学術発掘調査が黒埼村（当時）教育委員会の公費負担により実施され、配石遺構や多量の土器（縄文時代終末から弥生時代初頭及び古墳時代前期）が検出されている。昭和53（1978）年から55（1980）年にかけて、遺跡中心部附近を貫く県道新潟・燕線の特設改良工事に先立つ本格調査（第3図のA）が3次にわたって黒埼町教育委員会により実施された結果、縄文時代晩期末から弥生時代初頭、古墳時代前期及び平安時代にかかる遺構や遺物が多数検出され、大きな成果をあげている（注）。その後、同町教育委員会によって平成5（1993）年1月及び8月に開発事業に先立つ範囲確認調査がそれぞれ別地点（第3図のイ・ウ）で実施された。1月の調査では遺物包含層上面までの掘削であったが、上面から古式土師器や須恵器・土師器が一定量出土した。平成7（1995）年にも遺跡東端部附近で確認調査が実施され、遺物包含層の存在が確認されている（第3図のエ）。

調査に至る経緯 平成14年4月1日、緒立B遺跡の周知範囲内にある当該地の地権者より測量設計事務所を通じ農振除外及び一般住宅建設の可否について歴史文化課に対し事前協議の申し出があったため、文化財保護法（以下「法」）第57条の2に係る土木工事の届出提出を求めた。提出された届出に対し新潟県教育委員会（以下「県教委」）から確認調査の指示があったため、新潟市教育委員会（以下「市教委」）より法第58条の2に係る発掘調査の報告を県教委に行い、地権者の協力を得て調査を実施した。

調査の方法及び結果 調査対象地内に2m×3m程度の試掘坑を3箇所設定した（第4図）。現地は過去に1mほどの盛土が施されていたので、まず0.4㎡級のバックホーを用いて試掘坑周辺の盛土を除去し、そこから改めて深度2～3mに達するまで慎重に掘り下げながら遺構・遺物の有無の確認を行った。いずれの試掘坑でも最下底はガツボ（マコモ類の堆積層）と灰褐色粘土層の互層であり、その上に平成5年の確認調査でも検出された粘質土（Ⅱa層及びⅡb層）、表層には前述の盛土が堆積していた（第5図）。平成5年1月の調査で確認された遺物包含層はここでは見られず、むしろ遺跡範囲の外側であるとされた同年8月の調査地点に土層堆積状況がよく似ている。遺構・遺物は一切検出されなかった。

まとめ 調査地は緒立B遺跡の周知範囲内であるが、今回の開発にあたっては問題ないと判断された。

（注）黒埼郷土史研究会1957『新潟・緒立遺跡調査概要報告書』

黒埼郷土史研究会1958『緒立遺跡』

黒埼地方史研究会1959『緒立－黒埼村緒立遺跡発掘調査中間報告－』

黒埼町教育委員会1979『新潟・燕線特設改良工事にかかわる緒立遺跡第1次発掘調査報告』

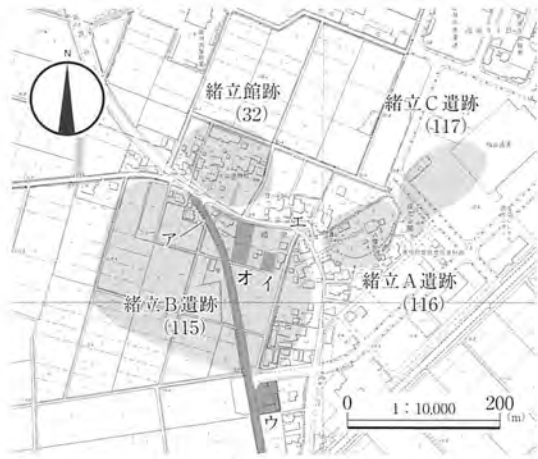
黒埼町教育委員会1979『新潟・燕線特設改良工事にかかわる緒立遺跡第2次発掘調査報告』

黒埼町教育委員会1981『新潟・燕線特設改良工事にかかわる緒立遺跡第1次発掘実績報告』

黒埼町教育委員会1983『緒立遺跡発掘調査報告書』

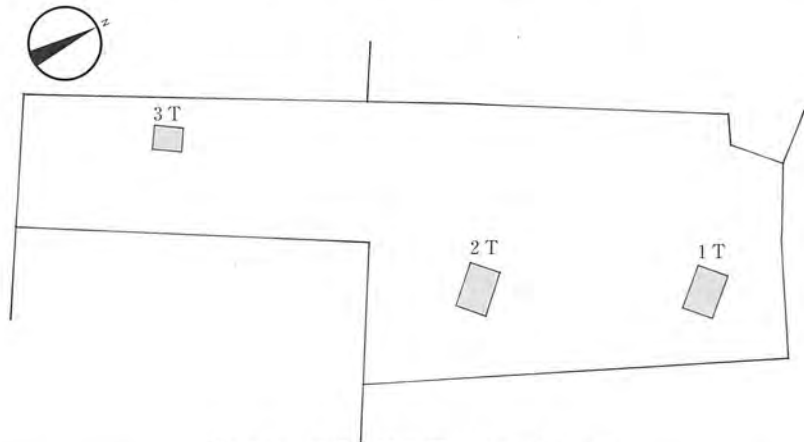


写真1 緒立B遺跡調査地（北東から）
※矢印は平成5年度調査地

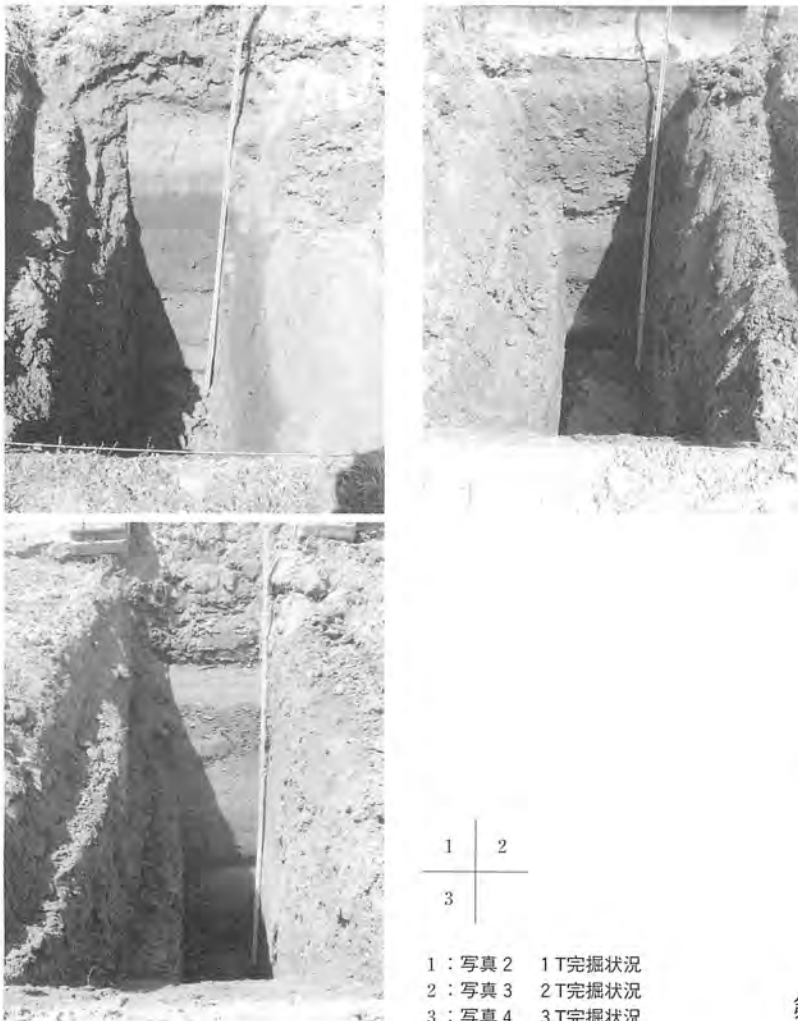


ア：昭和53～55年調査
 イ：平成5年1月調査
 ウ：平成5年8月調査
 エ：平成7年調査
 オ：平成14年4月調査

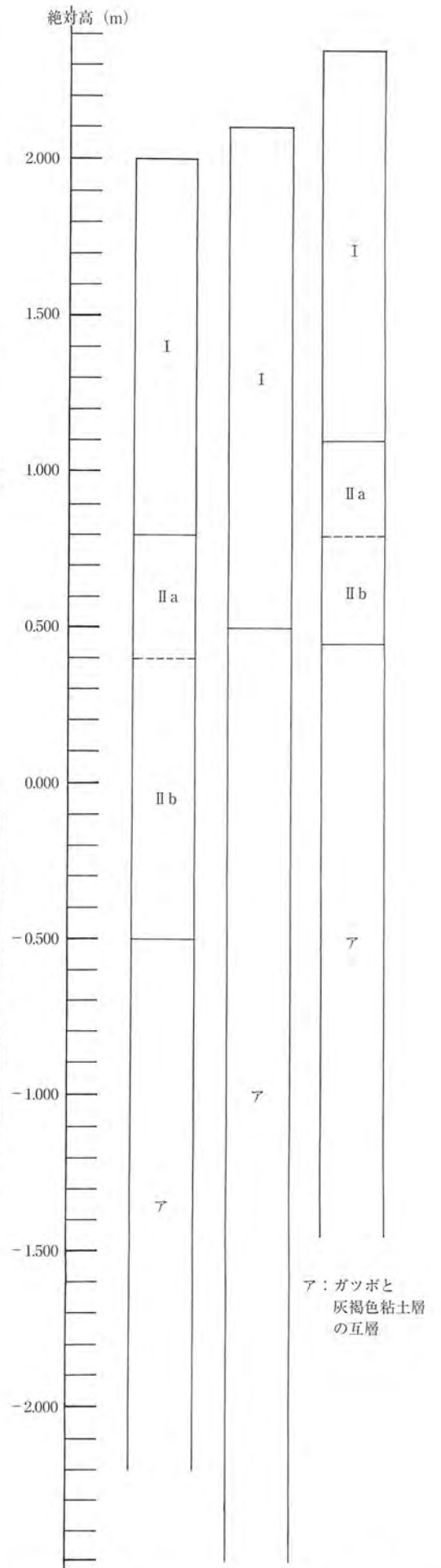
第3図 調査地位置図



第4図 試掘坑配置図 (S = 1/500)



1：写真2 1T完掘状況
 2：写真3 2T完掘状況
 3：写真4 3T完掘状況



第5図 土層柱状図 垂直方向のみ (S = 1/20)

(2) ^{うちのとなかさい}内野戸中才宅地開発事業予定地試掘調査

調査地：内野戸中才1472ほか 調査面積：198.0㎡（調査対象面積16,000.0㎡の約1.2%）

調査期間：平成14年4月23日(火)～26日(金) 調査担当：廣野耕造

調査地の概要 調査地は新川と西川の合流地点西側に隣接し、六地山遺跡（新潟市遺跡番号3）の立地する残丘状の新砂丘Ⅱから北へ約700mあまりの地点にあたる。

調査に至る経緯 「内野戸中才宅地開発事業」については、平成11（1999）年度に歴史課・埋文センターが実施した開発事業照会に対して市都市開発課から回答があり、予定地の南側が周知の埋蔵文化財包蔵地である六地山遺跡にかかることから、その取り扱いについて開発業者と協議を行ってきた。平成12（2000）年12月には約60,000㎡の開発予定地を事業主体別に第1期分（予定地北側の20,000㎡）と第2期分（予定地南側の40,000㎡）に分け、とりあえず第1期分のみ先行して事業着手することが決定した。その後、開発業者の都合で事業着手が遅れていたが、平成13（2001）年12月にはようやく事業スケジュールが確定し、平成14年4月に試掘調査に着手することとなった。

調査の方法及び結果 開発業者が打設した測量杭を利用して調査地全体に東西方向30m、南北方向20mのメッシュをかけ、その交点上にあたる33ヶ所に2.0m×3.0mの試掘坑を設定した（第6図）。南北方向のメッシュ間隔が短いのは、埋没砂丘に直行する方向であるため、予想される地下地形の変化をより精密に把握しようと考えてのことである。掘削は0.4㎡級のバックホーを使用し、慎重に掘り下げながら遺構・遺物等の有無の確認に努めた。掘り下げ深度は2.0mを基本としたが、土層柱状図を作成する試掘坑では可能な限り深掘りを行い、現地表面から3.0m程度まで到達した。

基本土層はⅠ層～Ⅴ層に大別され、その他不規則かつ部分的に出現する土層がある（第7・8図）。

新川に近い18Tや19Tの最下底で検出された明灰色細砂は、砂丘基盤層というよりむしろ河川堆積物の可能性が高いであろう。また、ほとんどの試掘坑でガツボ（マコモ類の堆積層）ないしガツボとⅤ層の互層が確認されており、周辺の状況が長期間にわたってマコモの繁茂する低湿地であったことも判明した。

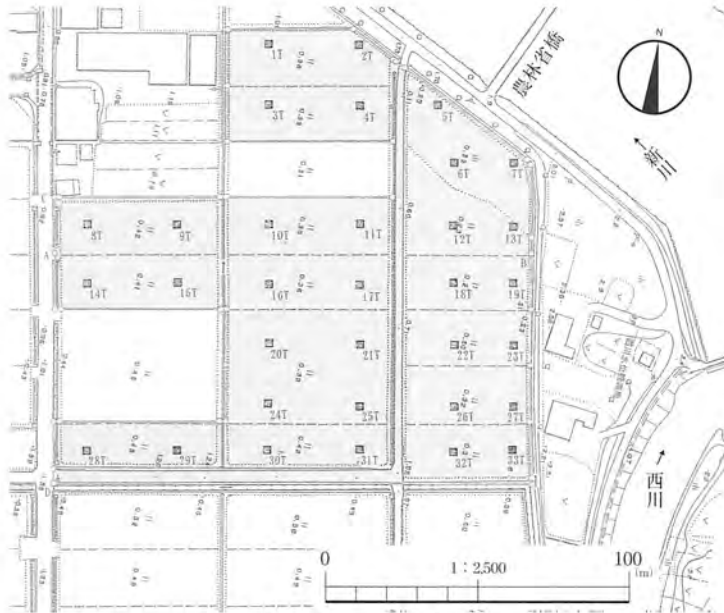
5Tで近世中期以降の所産とみられる花瓶口縁部破片が出土しているほか、遺構も遺物も検出されていない。

まとめ 土層の堆積状況からみて、今回の調査地周辺はほぼ一貫して低湿地であったと推定され、遺跡が立地する可能性はきわめて低いと考えられる。

開発にあたっては埋蔵文化財保護上問題ないと判断された。



写真5 調査地全景（北から）



第6図 試掘坑配置図

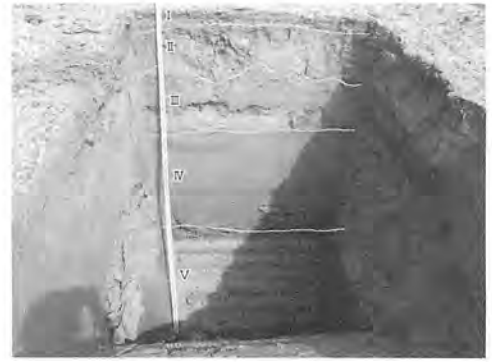
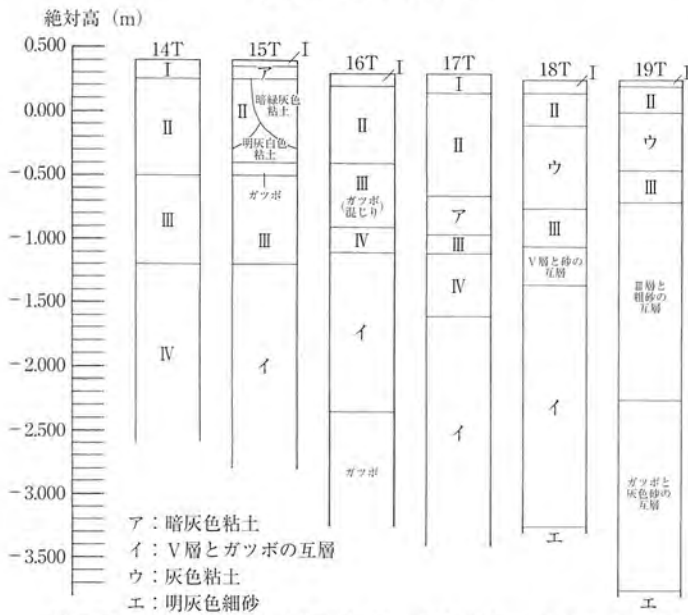


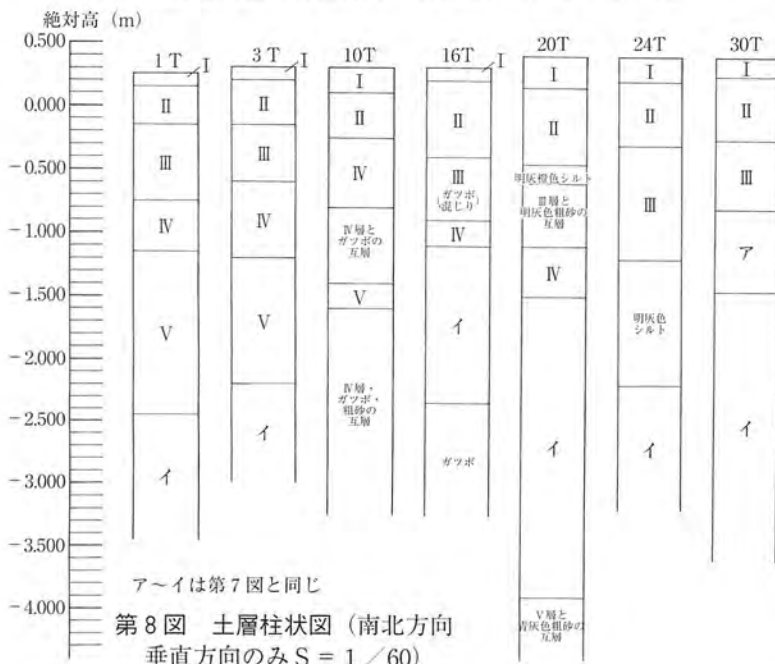
写真6 1T完掘状況



写真7 16T完掘状況



第7図 土層柱状図 (東西方向 垂直方向のみ S = 1/60)



第8図 土層柱状図 (南北方向 垂直方向のみ S = 1/60)



写真8 30T完掘状況

(3) ^{びょういんわき}病院脇遺跡範囲確認調査

調査地：赤塚字上谷内5588番地 調査面積：60㎡（調査対象面積2,858㎡の約2.1%）

調査期間：平成14年8月5日(月)～7日(水) 調査担当：諫山えりか・朝岡政康

遺跡の概要 佐潟・御手洗潟間の砂丘（新砂丘Ⅱ-a列）上に立地する。昭和55（1980）年度実施の分布調査では佐潟北岸の砂丘斜面上で平安時代の土師器碗破片が採集され、遺物散布地として登録された。その後実施された昭和60（1985）年の踏査時には遺物は採集されなかった。

調査に至る経緯 医療法人水明会佐潟荘理事長より市教委に対し、現在使用している病院建物の老朽化に伴う建替えを検討している旨連絡があった。予定地に遺跡範囲がかかっていたため、文化財保護法第57条の2第1項に基づく届出の提出を依頼し、6月27日付けで受理した。予定地の現況はスイカ畑及び職員駐車場であり、スイカの収穫後に調査することとなった。

調査の方法及び結果 0.25㎡級バックホーと転圧機を用い、作業管理者1名と作業員2名により作業を実施した。調査区域全体に20ヶ所の試掘坑（2m×2m）を均等に設定した（第9図）。

地表面から2～2.5mほど掘り下げた結果、ほとんどの試掘坑において、2mほどで基盤層と思われる明褐色砂層を確認した（第10・11図）。通常遺物が包含されている黒褐色砂層の自然堆積層は見られず、上部はすでに掘削されている可能性が高い。第5試掘坑など砂丘頭頂部よりで基盤砂層が高い地点で確認されたが、上部は同様に掘削を受けている。第9・12試掘坑などでは駐車場造成時の盛土が厚く堆積していた。いずれの試掘坑からも自然堆積層からの遺物出土は認められず、遺物包含層や遺構も確認されなかった。

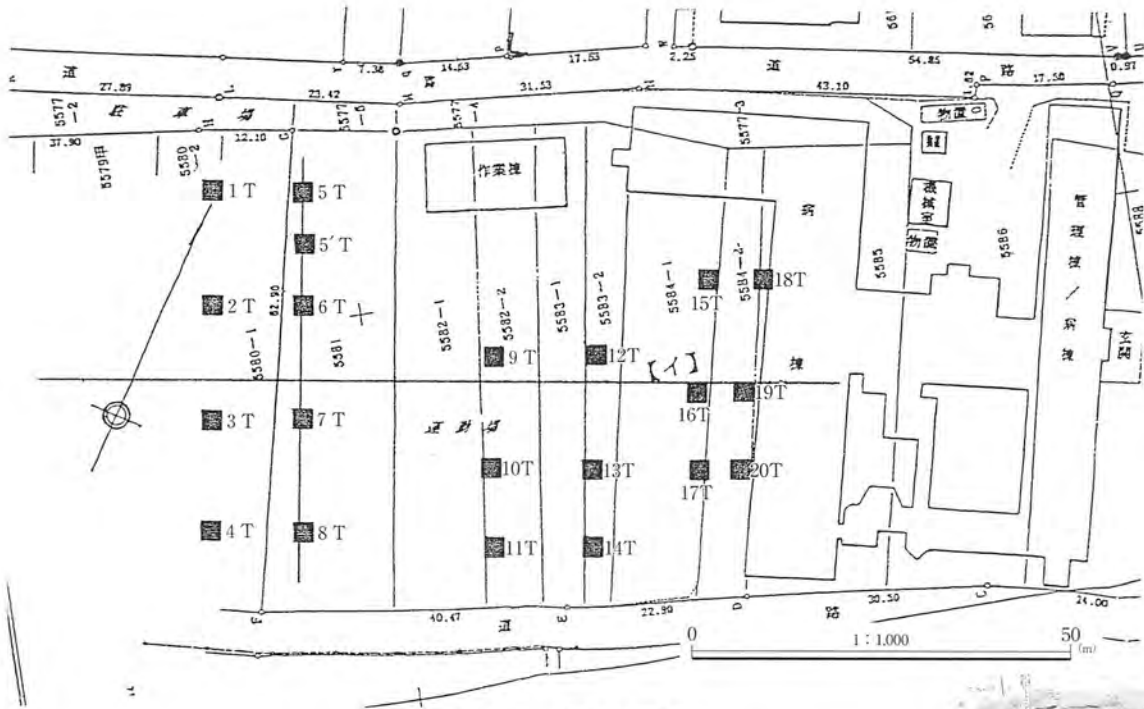
まとめ 調査区内は、すでに掘削を受け遺跡の存在が確認されなかったことを平成14年8月26日付けで県教委に報告し、工事主体者には慎重に工事を実施するよう伝達した。



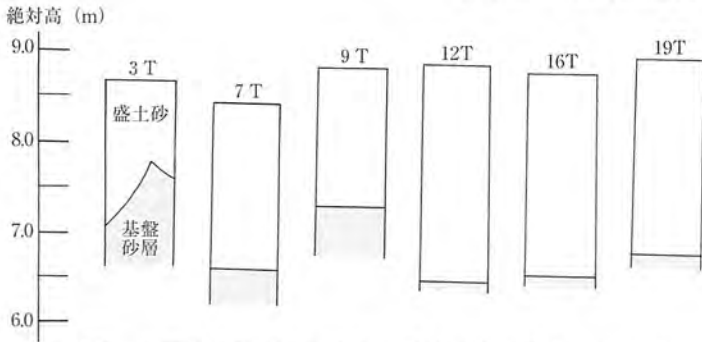
写真9 調査地近景（南から）



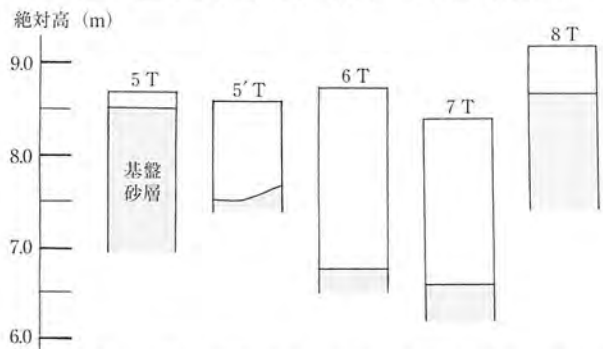
写真10 3T完掘状況



第9図 試掘坑配置図



第10図 土層柱状図（東西方向 垂直方向のみ $S = 1/60$ ）



第11図 土層柱状図（南北方向 垂直方向のみ $S = 1/60$ ）



写真11 5T完掘状況

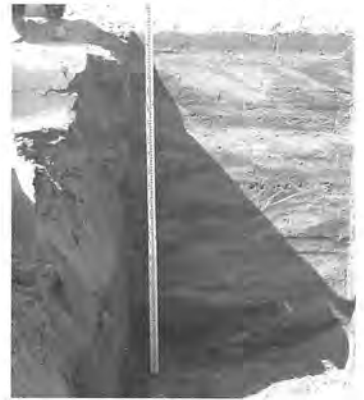


写真12 6T完掘状況

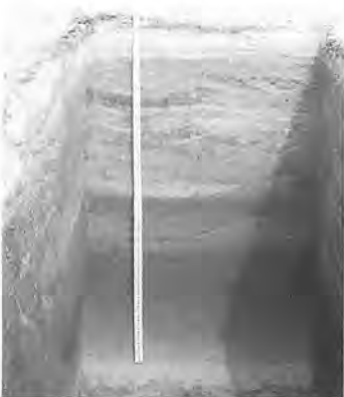


写真13 9T完掘状況

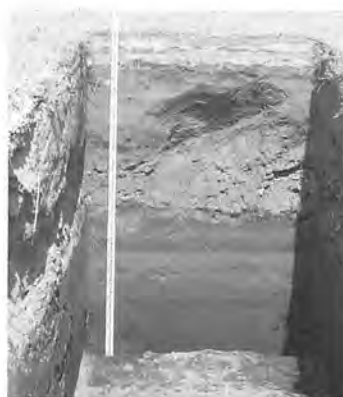


写真14 16T完掘状況



写真15 8T完掘状況

(4) 山木戸^{やまきと}遺跡立会調査

調査地：山木戸4丁目430ほか

調査面積：400㎡

調査期間：平成14年7月3日(水)・8月7日(水)

調査担当：諫山えりか・朝岡政康

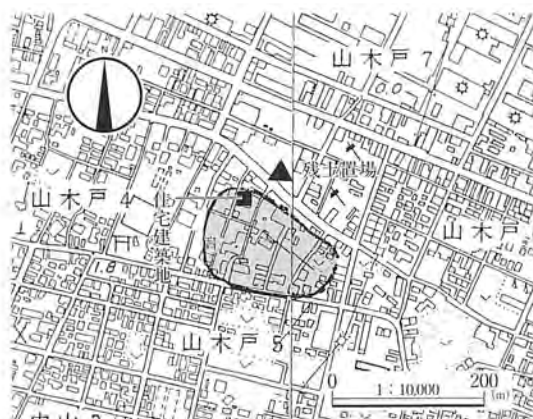
遺跡の概要 山木戸遺跡は阿賀野川以東の新砂丘Ⅱ-4列に対比される牡丹山砂丘上に立地する。平成元年(1989)年に平安時代の遺物が散布していることが確認され、翌年の試掘調査により平安時代及び中世の遺跡であることが確認された。平成3(1991)年と6(1994)年に近接地で本発掘調査が行われ、平安時代当時、周辺に存在していたと推定される港湾関連施設と関わる官衙関連遺跡である可能性が指摘されている。一方中世では鎌倉時代の井戸や土坑、また貿易陶磁器や珠洲焼などが多く検出されている。

調査に至る経緯 遺跡周知範囲内に在住する地権者より、自宅敷地内に別棟の住宅を建築するための建築確認申請が市役所に提出された。しかし既に基礎工事が終了してしまっているのに、遺跡についてどのように対応して良いかとの問い合わせが担当課より歴史課に寄せられた。直ちにセンター職員が現地確認に赴き、地権者に事情をうかがった結果、今回の工事は以下のような経緯で行われたことが分かった。

- ①基礎工事が行われる1ヶ月ほど前に建築予定場所の土の入れ替え工事を行った。遺跡はこの時損壊したものである。
- ②工事は地権者個人が独自に行ったもので、今回の申請とは全く関係しない。
- ③掘削は現地表面下70～80cmほどを掘り下げた。掘削に伴う残土は地権者が所有する他の土地に撒かれた。
- ④掘削は黒褐色砂を全て取り除き、その下層の白砂(砂丘基盤層か?)が露出していたとのことであった。このことから、遺物包含層は全て掘削されたものと思われる。

対応 地権者に対しては、文化財保護法第57条の2に基づく届出に遅延理由を付記して提出するよう求め、遺跡の概要を説明し、今後同じような工事を行う場合事前に相談を頂けるようお願いした。また、後日残土捨て場で遺物採集をさせてもらうことをお願いし、8月7日に実施した。

まとめ 今回のケースでは、遺跡周知範囲内における個人による小規模土木工事(簡易な庭の造成や土の入れ替えなど)について文化財保護部局が事前に把握するにはどうしたらよいか、また地元の方にどのように周知してもらうか、という問題について今後検討する必要がある。



第12図 遺跡位置図



写真16 山木戸遺跡立会調査地点(残土置場)

(5) 新潟市郷土資料館（重要文化財 旧新潟税関庁舎）敷地内収蔵庫撤去作業に伴う立会調査

調査地：緑町3437ほか

調査面積：約130㎡

調査期間：平成14年12月6日(金)・7日(土)及び平成15年2月24日(月)・25日(火) 調査担当：朝岡政康

遺跡の概要 旧新潟税関庁舎は明治2（1869）年10月に竣工した。開港当時の税関庁舎としては現存する唯一の建物で、擬洋風の木造建築である。昭和44（1969）年に国の重要文化財指定を受けている。

平成8（1996）年と9（1997）年には郷土歴史博物館（仮称）を建設するための周辺整備事業の一環として、当時存在していたと思われる「荷揚げ場石段および護岸石積み遺構」の有無を確認するための発掘調査を行っている（注）。

調査に至る経緯 郷土歴史博物館（仮称）建設工事の一環として、現在史跡地内にある収蔵庫が撤去されることになった。この収蔵庫の地下には、平成9年に行われた確認調査のT2の所見より野面積み状配石が存在する可能性が高かったため、撤去工事にあたり立会調査を行うこととなった。

調査の結果 撤去工事は既存建物の基礎が埋め込まれている部分の掘削にとどまり、掘削深度は最大でも現地表面下70～80cmであった。工事中は遺構、遺物の有無の確認および土質の変化を見落とさぬよう留意した。掘削終了後土層の観察を行ったが、表土と碎石層、盛砂と思われる山砂層が確認されたのみであった。立会により得られた所見は以下のとおりである。

①平成9年確認調査時のT2では、現地表面下-1.0～-1.2mほどで野面積み状配石が確認されたが、今回の工事では掘削深度も浅く、土層も人為的的形成によるものしか確認できなかった。

②遺構・遺物は全く検出されなかった。

まとめ 以上のことから、この撤去工事による埋蔵文化財への影響は全くないことが確認された。

付記 そのほか、郷土資料館敷地内においては強風によって倒壊した樹木の撤去による旧新潟税関庁舎基礎部分への影響の有無を確認するため立会いを行なっている（11月16日及び18日、立会職員廣野耕造ほか）。

（注）新潟市教育委員会1997『史跡旧新潟税関発掘調査報告書』



第13図 郷土資料館収蔵庫位置図

3 分布調査

(1) 調査の目的と方法

目的 新潟市内の遺跡分布については、地元研究者の踏査活動や昭和60（1985）年度に県教委が主体となって行なった詳細分布調査などで得られた情報をもとに、市教委でも独自に遺跡カードや遺跡地図を作成して周知を図ってきた。また、平成6（1994）年に刊行された新潟市史資料編1は、当時存在が確認されている市内遺跡のすべてについて詳細を記した、現状では唯一の文献である。

しかし近年、県教委と市教委それぞれが保有している遺跡データに食い違いが生じていることが判明し、両者協議の結果、さしあたって最も広範に公開されている市史のデータに合わせて統合しようということになったが、市教委としても組織だった踏査活動を久しく実施していなかったため、このことを契機として既存遺跡の現況確認と新遺跡の発見をめざし、市内各地区で計画的に分布調査を実施することとなった。

また、同じころ、東土木事務所より歴史文課及びセンターに対し、新潟市の所有・管理する「阿賀野川右岸緑地（約169,000㎡、図21参照）」の公園化計画について協議の申し入れがあった。そこで、当該地の踏査についても市内遺跡の分布調査計画の中に組み入れ、合わせて調査を実施することとした。

方法 調査の方法等は以下のとおりである。

（赤塚地区及び黒埼地区）

調査日程など：10月21日(月)から23日(水)及び25日(金)の計4日間とし、各日おおむね午前9時から午後4時までを調査時間とした。

人員体制：センター職員と臨時職員（発掘調査参加経験豊富で、遺物を見て認識できる人が望ましい）でチーム（センター職員1名と臨時職員3名を1班とし、2班構成）を作り、当該地を踏査した。赤塚地区では並松景政氏（赤塚郷土研究会）、黒埼地区では山際藤吉氏（市文化財保護審議会委員）に踏査へ同行いただき、現地での指導をお願いした。

備考：臨時職員の賃金は市内遺跡範囲等確認調査事業費（国県補助対象経費）から支出した。

調査に先立って、対象地区地元住民には文書回覧等により周知し、協力をお願いした。

（阿賀野川右岸）センター職員2名と臨時職員3名で踏査を実施した。

調査日程：平成14年10月24日(木)

今後の課題 全体として、以下の点について課題が残った。

まず、各種耕作物（ダイコンなど）のため地表面が観察できない地域があった。調査期間を農閑期に設定するなどの工夫が必要であろう。また、今回は周知遺跡の現況確認が中心となり、新遺跡の発見には至らなかった。事前に地形の把握を行い、未発見の遺跡が存在する可能性の高い空白域を重点的に踏査するなど、調査方法の再検討を行いたい。

(2) 赤塚地区調査結果の概要

既存の遺跡については現在周知されている範囲を中心に、地形や土地利用状況を観察した。赤塚地区では旧地形が良好に残っていると予測していたが、近年耕作の大規模化などに伴い、多くの地点で削平や盛土が行われていることが判明した。今回重点的に踏査した遺跡の概要については表6を参照されたい。なお、新遺跡は発見されなかった。

遺跡名	遺跡番号	現状	採集遺物		所見
荒所A	2	畑			変更なし
寺山	20	畑			一部旧地形を残す 耕作のため一部未踏査
赤塚神明社	27	畑・神社ほか	剥片	写真17・表8	変更なし
神山	33	畑・宅地			変更なし
大藪	41	畑・宅地	古代～中世	写真17・18・表8	北西側に盛土（墓地として利用）
木山	42	畑・水田・道路・宅地			変更なし
北浦原A	48	畑	土師器	写真17・表8	佐潟側（北側）斜面一部削平 耕作のため遺跡範囲南側は未踏査
石ナゲ山	49	畑	土師器碗	写真17・表8	周知範囲外で遺物採集、周知範囲の再検討
ヤマサキ	55	畑・宅地	古代～中世	写真17・表8	変更なし
茨曾根	57	畑・宅地			変更なし
木山墓所	58	神社ほか			旧地形を残す
尼池	59	畑・池			北東隣接地に粘土の搬入あり
観音原	60	墓地			雑草のため地表面観察できず
坂田	63	畑・水田	古代～中世	写真17・表8	西側周知範囲外で遺物採集、周知範囲の再検討 盛土等のため遺跡範囲北側の一部未踏査
上谷地A	64	畑			耕作のため中心部分未踏査
病院脇	65	畑・病院	土師器碗	写真17・表8	西側周知範囲外で遺物採集、周知範囲の再検討
上谷地B	66	畑			植林のため遺跡範囲南側は未踏査
沼	67	畑	珠洲焼甕	写真17・表8	耕作のため遺跡範囲北東側は未踏査
北浦原B	71	畑	古代	写真17・表8	全域で削平 周知範囲内に新規建物
荒所B	73	畑	縄文土器ほか	写真17・表8	縄文土器は初検出
吹荒地	75	畑			遺跡西端に盛土
ツル子C	77	畑			耕作等のため多くは未踏査
原付	103	林			雑草のため地表面観察できず
南浦原	108	公共施設・畑	珠洲焼すり鉢	写真17・表8	踏査は遺跡範囲西端のみ
清水上	205	畑			耕作等のため多くは未踏査

表6 赤塚地区の遺跡踏査結果

(3) 黒埼地区調査結果の概要

黒埼地区についても、周知の遺跡周辺を踏査して現況を確認することを主目的とし、現時点で最も妥当と考えられる周知範囲を設定することを目指した。重点的に踏査した遺跡の概要は表7にまとめた。新遺跡は発見されなかった。

遺跡名	遺跡番号	現状	採集遺物		所見
緒立城館跡	32	畑ほか			現況に変化なし
木場城跡	120	畑ほか			遺物は採集されなかったが周知範囲は当面現状維持とする
釈迦堂	119	水田	古代～中世	写真19、表9	北側周知範囲内外で多くの遺物を採集 周知範囲の北側への拡大を検討
巳ノ明	118	水田			遺物は採集されなかったが周知範囲は当面現状維持とする

表7 黒埼地区の遺跡踏査結果

(4) 阿賀野川右岸調査結果の概要

アシの繁茂する部分は残念ながら踏査できなかったが、地表面の観察できる耕地が全体の7割以上を占めるため、おおむね全域を踏査できたと考えてよいであろう。

採集した遺物は全て近世中期以降のもので、それも非常に少量であった（泥面子4ほか6点、写真22参照）。この河川敷は阿賀野川の河川堆積物により形成された比較的新しい土地と推定され、遺物の散布状況からみても中世以前の遺跡が立地する可能性はほとんどないと考えられる。

(5) 新発見遺跡について

前述した踏査活動のほか、新遺跡発見に伴う踏査もあわせて実施した。

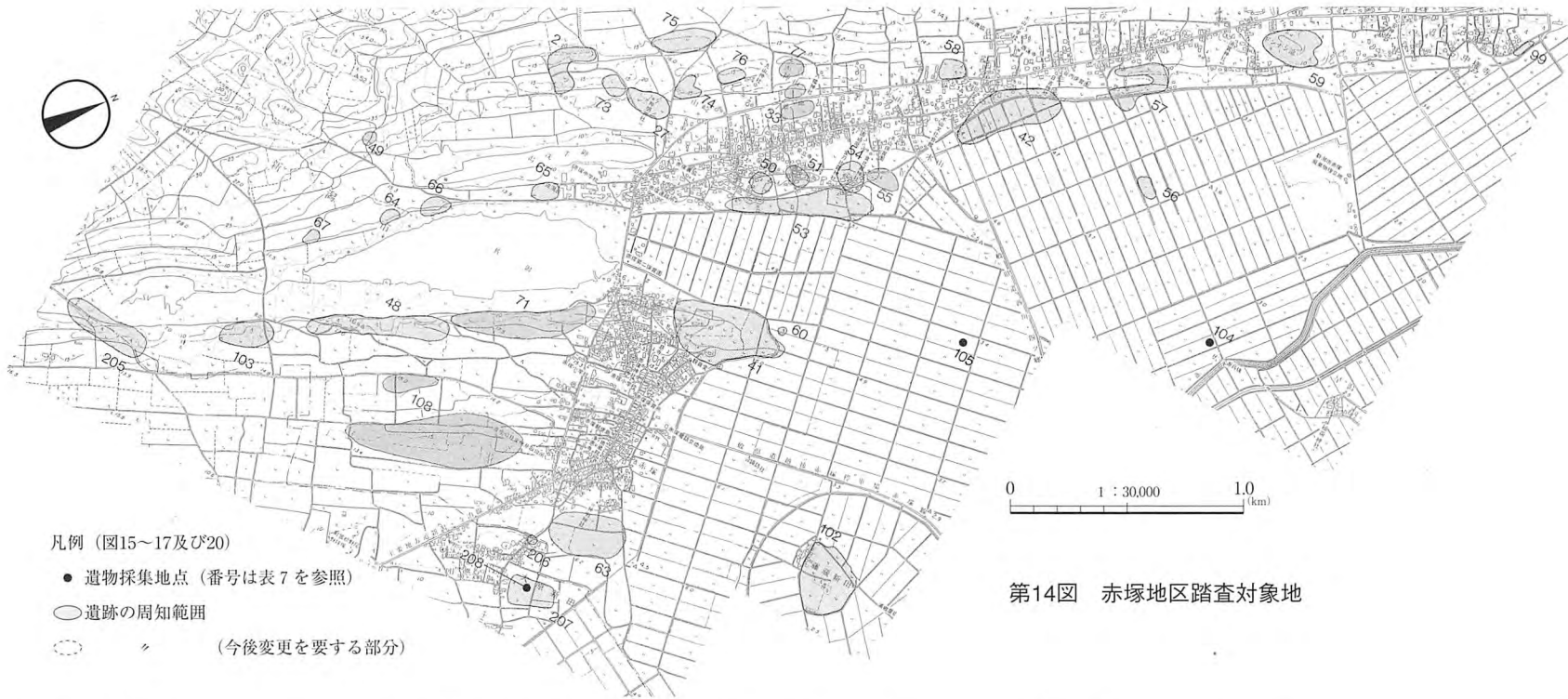
加藤学氏（新潟県教育庁文化行政課）より阿賀野川河口左岸で遺物が採取された（注）との連絡を受け、新遺跡（無番地のため「阿賀野川河口遺跡」と命名）の発見通知を新潟県教育委員会教育長あて送付（平成14年5月10日付新歴第120号）するとともに、現況を確認するため5月14日にはセンター職員による現地踏査を実施した。

現地では近世陶磁器のほか、土器片等が数点採集された。土器片自体は磨耗が激しく、時期判別が難しい（写真24）。

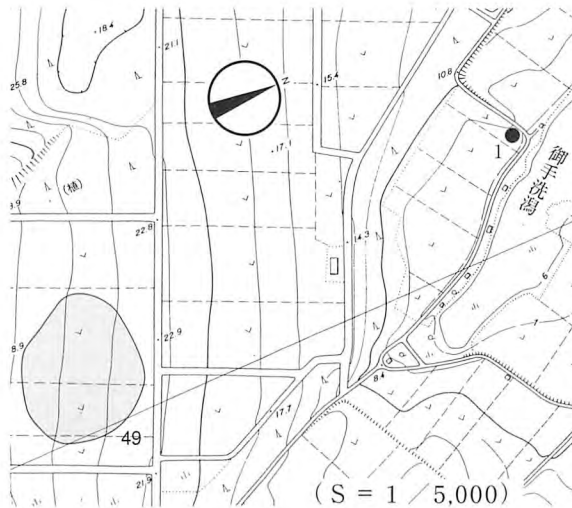
遺物採集範囲は阿賀野川左岸の河口から東側へ延びた砂嘴の北側（海側）を中心に広がっている。水面からの比高差は1.0m～1.2mを測る。

後日、新潟県教育庁文化行政課長より新潟市教育委員会教育長あてに新発見遺跡の登録について通知（平成15年5月31日付け教文第290号）があり、阿賀野川河口遺跡は正式に周知化された。

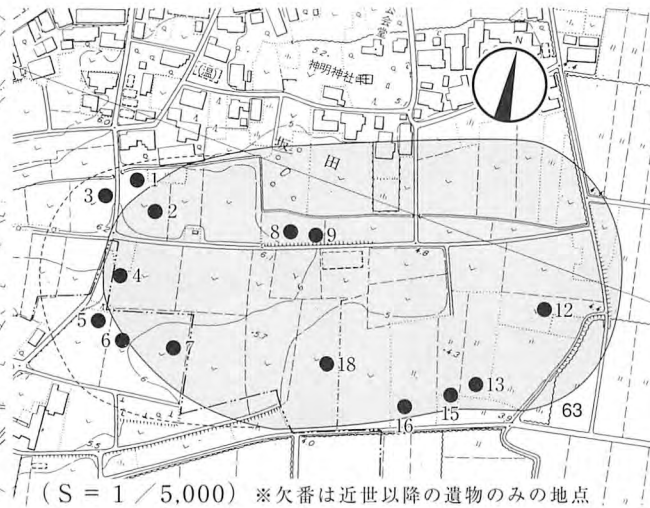
（注）加藤学・尾崎高宏2002「阿賀野川河口採集の遺物－採集地点をめぐる二、三の問題－」『新潟考古』第13号 新潟県考古学会



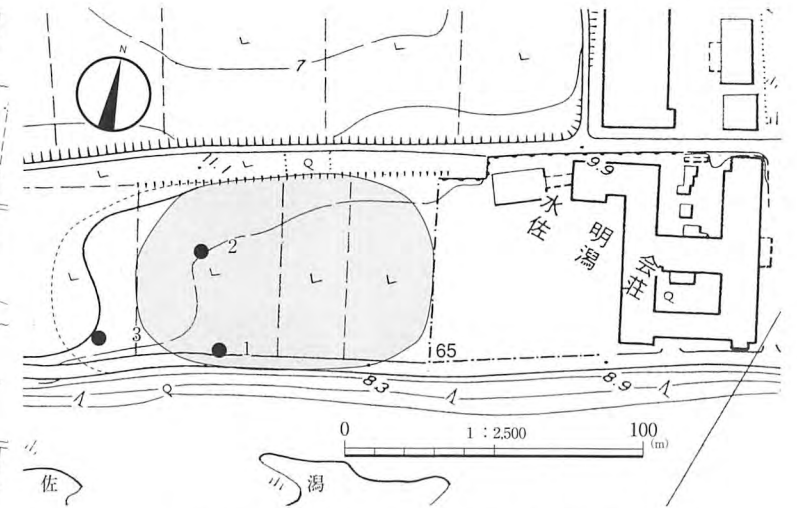
第14図 赤塚地区踏査対象地



第15図 石ナゲ山遺跡 (49) と遺物採集地点



第16図 坂田遺跡 (63) と遺物採集地点



第17図 病院協遺跡 (65) と遺物採集地点

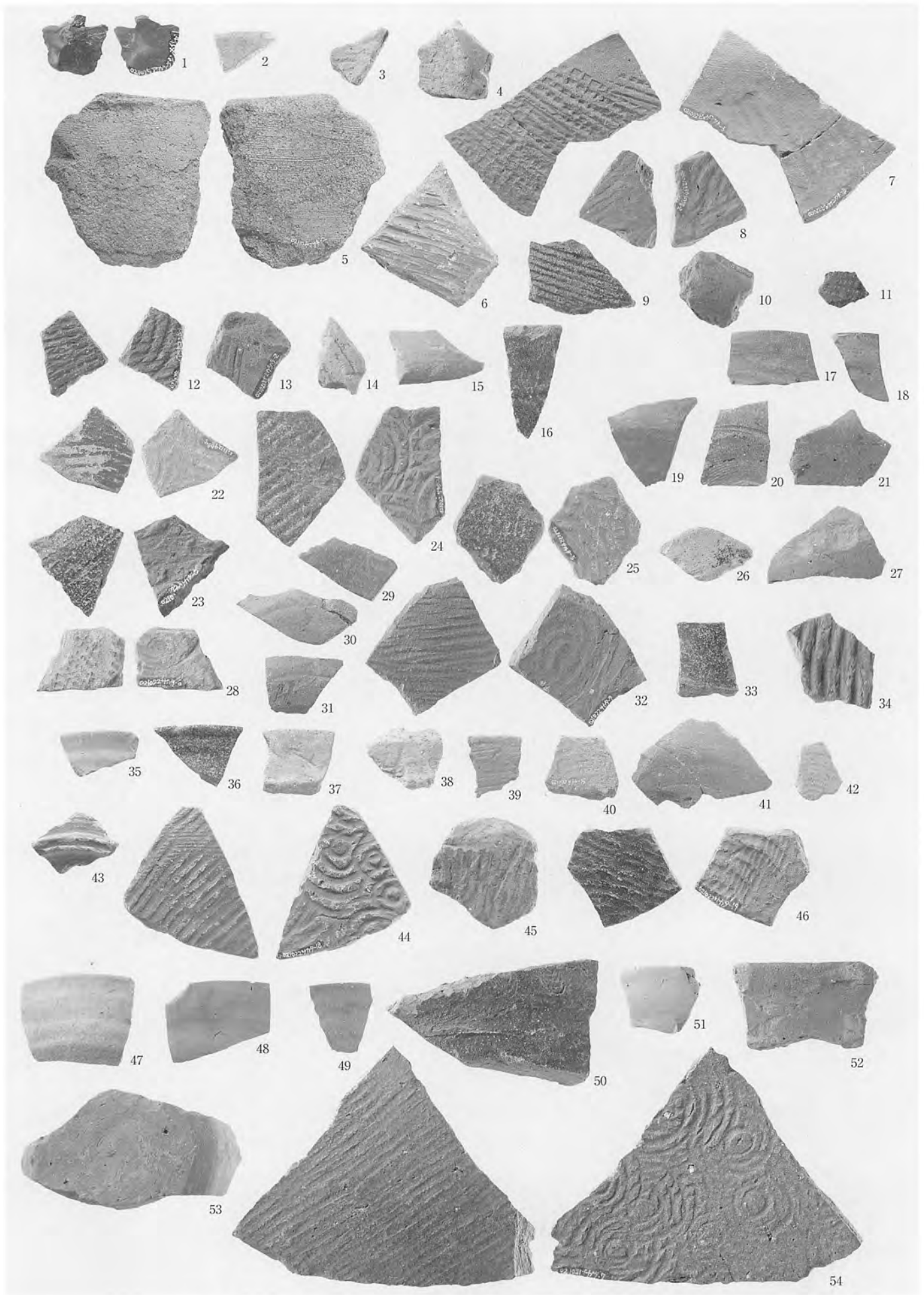


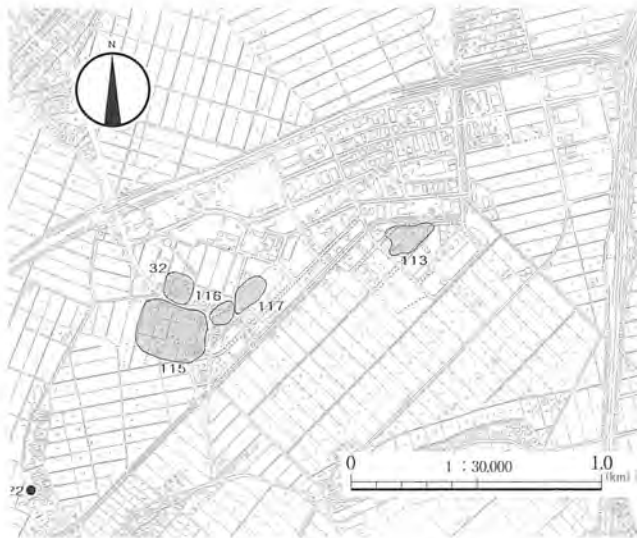
写真17 赤塚地区採集遺物1 (1はS = 2 / 3、他は全てS = 1 / 2)



写真18 赤塚地区採集遺物2 (S = 1 / 2)

番号	遺跡名	遺跡番号	地点番号	内容	時代・時期等	特徴等
1	赤塚神明社	27		剥片	縄文か	黒色安山岩か
2	石ナゲ山	49	1	土師器	古代 (奈良・平安)	碗の口縁部か
3	病院脇	65	2	土師器	古代 (奈良・平安)	碗の底部か
4	病院脇	65	1	土師器	古代 (奈良・平安)	
5	ヤマサキ	55		土師器	古代 (奈良・平安)	内外面にハケ 甕の体部か
6	ヤマサキ	55		土師器	古代 (奈良・平安)	外面にタタキ 甕の体部
7	病院脇	65	3	須恵器	古代 (奈良・平安)	外面にタタキ 内面に当て具痕 頸部にカキメ 甕の体部
8	北浦原B	71		土師器	古代 (奈良・平安)	外面にタタキ 内面に当て具痕 長甕の体部か
9	沼	67		珠洲焼	中世	外面にタタキ 甕の体部
10	沼	67		土製品	不明	羽口先端部か
11	荒所B	73		土器	縄文か	縄文 土器胴部 時期不明
12	荒所B	73		須恵器	古代 (奈良・平安)	外面にタタキ 内面に当て具痕 甕の体部か
13	南浦原	108		珠洲焼	中世	すり鉢
14	坂田	63	1	土師器	古代 (奈良・平安)	碗の底部か
15	坂田	63	2	須恵器	古代 (奈良・平安)	無台杯の底部か
16	坂田	63	3	須恵器	古代 (奈良・平安)	外面に自然軸 甕の口縁部か
17	坂田	63	4	須恵器	古代 (奈良・平安)	杯の口縁部
18	坂田	63	5	須恵器	古代 (奈良・平安)	杯の口縁部
19	坂田	63	4	須恵器	古代 (奈良・平安)	無台杯の底部
20	坂田	63	5	須恵器	古代 (奈良・平安)	無台杯の底部 回転糸切り
21	坂田	63	5	須恵器	古代 (奈良・平安)	無台杯の底部
22	坂田	63	5	須恵器	古代 (奈良・平安)	外面にタタキ 内面に当て具痕 甕の体部か
23	坂田	63	5	須恵器	古代 (奈良・平安)	外面にタタキ 内面に当て具痕 甕の体部か
24	坂田	63	4	須恵器	古代 (奈良・平安)	外面にタタキ 内面に当て具痕 甕の体部か
25	坂田	63	5	須恵器	古代 (奈良・平安)	外面にタタキ 内面に当て具痕 甕の体部か
26	坂田	63	8	土師器	不明	器種等不明
27	坂田	63	12	須恵器	古代 (奈良・平安)	壺・瓶類の体部か
28	坂田	63	6	須恵器	古代 (奈良・平安)	外面にタタキ 内面に当て具痕 焼成不良 甕の体部か
29	坂田	63	6	須恵器	古代 (奈良・平安)	無台杯の底部
30	坂田	63	6	須恵器	古代 (奈良・平安)	無台杯の底部
31	坂田	63	7	須恵器	古代 (奈良・平安)	無台杯の底部
32	坂田	63	9	須恵器	古代 (奈良・平安)	外面にタタキ 内面に当て具痕 甕の体部か
33	坂田	63	12	須恵器	古代 (奈良・平安)	長頸壺の口縁部か
34	坂田	63	12	土師器	古代 (奈良・平安)	外面にタタキ 長甕の体部か
35	坂田	63	13	須恵器	古代 (奈良・平安)	杯の口縁部
36	坂田	63	13	須恵器	古代 (奈良・平安)	甕の口縁部か
37	坂田	63	13	土師器	古代 (奈良・平安)	甕か鍋の口縁部か
38	坂田	63	15	土師器	古代 (奈良・平安)	甕か鍋の口縁部か
39	坂田	63	15	土師器	時代・時期不明	器種等不明
40	坂田	63	15	土師器	古代 (奈良・平安)	碗の底部 回転糸切り
41	坂田	63	16	須恵器	古代 (奈良・平安)	無台杯の底部
42	坂田	63	17	土師器	古代 (奈良・平安)	碗の底部 回転糸切り
43	坂田	63	18	須恵器	古代 (奈良・平安)	有台杯の底部
44	坂田	63	18	須恵器	古代 (奈良・平安)	外面にタタキ 内面に当て具痕 頸部にカキメ 甕の体部か
45	坂田	63	18	土師器	古代 (奈良・平安)	外面にタタキ 長甕の体部か
46	坂田	63	19	土師器	古代 (奈良・平安)	外面にタタキ 内面に当て具痕 長甕の体部か
47	大藪	41		須恵器	古代 (奈良・平安)	杯の口縁部
48	大藪	41		須恵器	古代 (奈良・平安)	杯の口縁部
49	大藪	41		須恵器	古代 (奈良・平安)	杯の口縁部
50	大藪	41		須恵器	古代 (奈良・平安)	櫛描の波状文 甕の口縁部
51	大藪	41		土師器	古代 (奈良・平安)	碗の口縁部か
52	大藪	41		製塩土器	古代 (奈良・平安)	口縁部
53	大藪	41		須恵器	古代 (奈良・平安)	縁辺部にケズリ 壺ないし瓶の底部か
54	大藪	41		須恵器	古代 (奈良・平安)	外面にタタキ 内面に当て具痕 甕の体部か
55	大藪	41		青磁	中世	碗の口縁部か
56	大藪	41		珠洲焼	中世	甕の口縁部
57	大藪	41		珠洲焼	中世	外面タタキ 甕の体部か
58	大藪	41		珠洲焼	中世	外面タタキ 甕の体部か
59	大藪	41		珠洲焼	中世	外面タタキ (綾杉状) 甕の体部か
60	大藪	41		珠洲焼	中世	すり鉢
61	大藪	41		珠洲焼	中世	すり鉢
62	大藪	41		珠洲焼	中世	内面に黒色の付着物 (炭化物?) すり鉢

表8 赤塚地区採集遺物一覧 (番号は写真17・18中のものと一致)



第18図 黒埼地区踏査対象地1（緒立遺跡など）

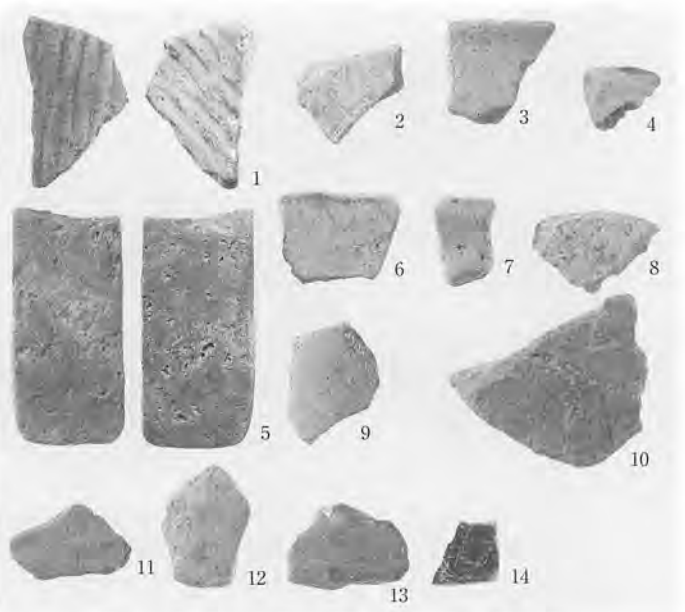


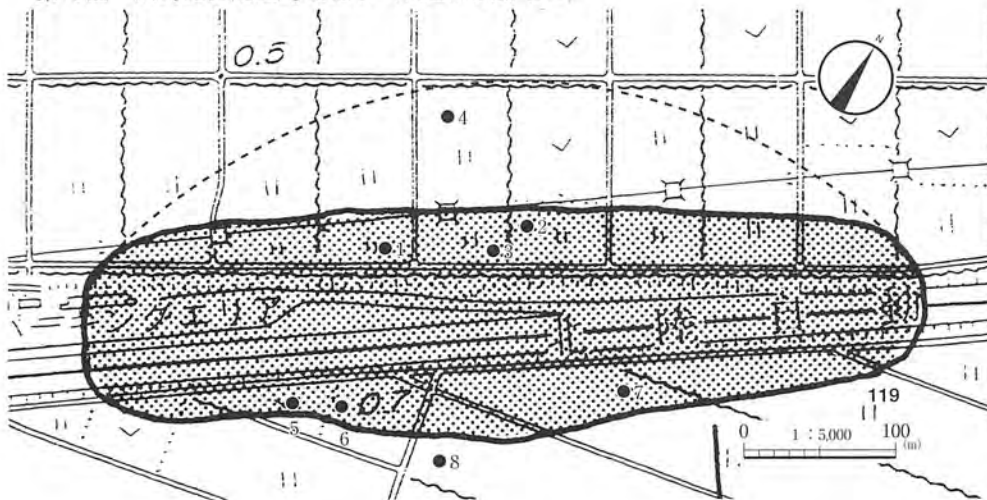
写真19 黒埼地区（釈迦堂遺跡）採集遺物



第19図 黒埼地区踏査対象地2（釈迦堂遺跡など）

番号	道路名	遺跡番号	地点番号	内容	時代・時期等	特徴等
1	釈迦堂	119	1	土師器	古代(奈良・平安)	外面タタキ 内面当て具痕 長袋の体部か
2	釈迦堂	119	2	土製品	不明	内外面ミガキ 中心部に孔を持つ円盤状?
3	釈迦堂	119	3	土師器	古代(奈良・平安)	内外面ナデ 甕の口縁部か
4	釈迦堂	119	5	土師器	古代(奈良・平安)	碗の体部か
5	釈迦堂	119	4	石製品	不明	砥石
6	釈迦堂	119	4	土師器	古代(奈良・平安)	甕の口縁部か
7	釈迦堂	119	4	土師器	古代(奈良・平安)	甕なしの鍋の口縁部か
8	釈迦堂	119	4	土師器	古代(奈良・平安)	碗の底部か
9	釈迦堂	119	4	土師器	古代(奈良・平安)	碗の口縁部か
10	釈迦堂	119	4	珠洲焼	中世	甕の体部か
11	釈迦堂	119	6	土師器	古代(奈良・平安)	甕の体部か
12	釈迦堂	119	7	土師器	古代(奈良・平安)	甕の体部か
13	釈迦堂	119	8	土師器	古代(奈良・平安)	甕の底部か
14	釈迦堂	119	8	瀬戸美濃焼	中世	天目茶碗の体部か

表9 黒埼地区採集遺物一覧（番号は写真19中のものと一致）



第20図 釈迦堂遺跡（119）北側と遺物採集地点



写真20 阿賀野川右岸踏査対象地（北半部を南から）



写真21 阿賀野川右岸踏査対象地（南半部を北から）



第21図 阿賀野川右岸分布調査実施範囲（破線内）
ドットは遺物採集地点 番号は写真22及び表10中のものと一致



写真22
阿賀野川右岸
採集遺物
(S = 1 / 2)

番号	採集番号	内容	特徴等
1	1	近世陶磁器	
2	2	近世陶磁器	白磁
3	3	近世陶磁器	
4	5	近世陶磁器	唐律か
5	6	近世陶磁器	
6	6	近世陶磁器	袋付焼
7	6	土製品(近世)	泥面子
8	4	土製品(近世)	泥面子
9	7	土製品(近世)	泥面子
10	8	土製品(近世)	泥面子



第22図 阿賀野川河口遺跡(123)位置図 (S = 1 / 20,000)



写真23
阿賀野川
河口遺跡
近景（西から）

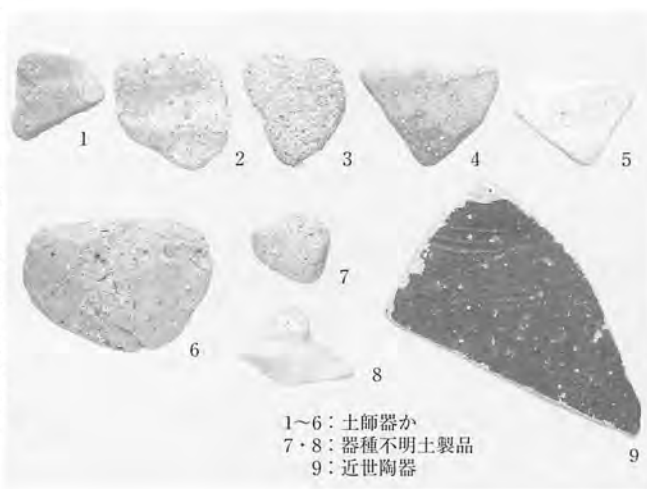


写真24
阿賀野川
河口遺跡
採集遺物
(S = 1 / 2)

1~6: 土師器か
7・8: 器種不明土製品
9: 近世陶器

4 整理作業

(1) ^{ひがしかい}東田遺跡

東田遺跡の発掘調査は本年度が最終年度にあたり、報告書刊行のための整理作業を行った。整理作業の内容は以下のとおりである。

- ①実測した土器・木製品・石製品などの出土遺物実測図及び遺構実測図のトレース作業。
- ②原稿の執筆、遺物観察表の作成。
- ③挿図・図面図版・写真図版の作成
- ④編集作業。
- ⑤報告書を基にした再収納作業。

報告書は平成15（2003）年3月31日刊行。

(2) 出土品整理・活用事業

平成14年度の作業 昨年度は新潟市が収蔵する遺物のうち特に量が多く、県指定文化財でもある的場遺跡の出土品を中心に、報告書に準拠した形で収納計画を立て、再整理した。

幸い、新潟県緊急地域雇用対策基金事業がまた今年度から3箇年新たに実施されることとなったため、今回は遺物の再整理と並んで懸案となっていた紙資料のデジタル化に着手することとし、計画を作成し申請したところ採択された。

なお、平成13年度の取り組みで一応の基本線ができたと言える出土遺物の再整理についても、緒立遺跡出土遺物の再整理をはじめとし、継続して取り組んでいくこととしている。

事業の目的と内容 過去、新潟市が実施した発掘調査によって得られた資料のうち、土器や石器などの実物についてはある程度統一された方式によって整理・分類されている。しかし発掘調査現場での遺構測量図面や写真、また室内整理作業を通して作成した遺物実測図や各種台帳類は紙ベースで保存され、書式も統一されておらず、検索が容易でないばかりか、一部は長年月の保存によって変質や滅失の危険も生じている。こうした現状を踏まえ、以下の項目について外部委託によりデジタル化を中心とした再整理を図ることを本事業の目的とした。

①各種資料のデジタル化：過去の発掘調査や整理作業で取得・作成した資料について、コンピュータで利用可能な形にするとともに、データを相互に関連付け、データベースとして運用できるように構築した。作業の詳細は以下のとおりである。

ア 遺物観察表のデジタル化：以下の項目をコンピュータ入力する。成果品は出力帳票及びデータファイル。

イ 遺物実測図のデジタル化：遺物実測原図を以下の仕様でデジタルトレースする。成果品はデータファイル（CADデータ、印刷用及び閲覧用データ、拓本画像データ）。

A 入力値約200dpiを基本として原稿をスキャンする。ただし拓本は入力値300dpiを基本とする。

B デジタルトレースした原稿はマイラー又は紙に出力し、センターの担当職員による1次校正を受ける。

C 校正終了後のデータは印刷用（eps形式）及び閲覧用（pdf形式）に変換する。

ウ 遺構実測図のデジタル化：発掘調査時に作成した遺構実測原図を②の工程に準じてデジタルトレース

する。また、各遺構について以下のデータをコンピュータ入力し、図面データとともに保存する。

成果品はデータファイル（CADデータ、印刷及び閲覧用データ、テキストデータ）。

エ 写真デジタル化：遺跡現場写真及び遺物写真を下記の仕様でデジタル化する。

A 入力元原稿は35mmカラーリバーサルフィルムを基本とし、入力精度、保存精度及び画像形式は印刷用途に適したものとする。

B 必要に応じ、データベース表示用の小容量（72～100dpi）画像ファイルも作成する。また、以下に示す各写真の撮影データ等をコンピュータ入力し、画像データとともに保存する。

成果品は画像データ（保存用及びデータベース表示用）及び撮影データファイル。

②出土文字資料の集成：平成13年度に引き続いて墨書土器などの文字資料をデータベースに入力しデジタル化した。本年度は新規資料の追加入力を行なうとともに、検索機能やカード形式での出力機能も付加し、利便性の向上を図った。入力形式等は①のア～エに準じた。成果品はデータベースファイル。

なお、検索システム構築にあたっては、新潟大学人文学部の小林昌二教授・相澤央氏及び新潟県立歴史博物館の浅井勝利主任研究員より指導・助言をいただいた。記して感謝申し上げます。

③出土品分別：東畠遺跡から出土した微細な遺物を炭化物、炭化米、植物遺体その他に分別した。

なお、本年度を含め向こう3箇年の事業対象となった資料点数は下表に示した。

遺跡名	実施予定年度 (平成)	観察表のデジタル化 点数	遺物実測図デジタル トレース点数	遺構図等デジタル トレース点数	写真類デジタル化 点数	遺物選別 (箱)
笹山前	14	890	810	150	960	0
神明社裏	14	40	890	30	920	0
城山	14	70	70	20	90	0
大淵	14	810	40	80	120	0
石動	15	800	370	120	1040	0
前田	15	370	1,800	25	625	0
東畠	14-15	270	1,000	50	720	4
緒立B	15-16	680	270	90	1160	0
緒立C	15-16	1,110	1,000	60	830	0
小丸山	16	1,000	680	40	1060	0
的場	16	1,800	1,110	65	490	0
大藪	16	560	800	40	360	0

表10 出土品整理・活用事業予定数

5 出土遺物保存処理

(1) 概要

新潟市内遺跡出土の木製品をめぐる状況 新潟市内の遺跡はその大部分が砂丘上あるいは低湿地に立地しているため、木製品など脆弱遺物の遺存状態が非常に良好なのが特色である。これまでの的場遺跡、小丸山遺跡、山木戸遺跡、神明社裏遺跡など多くの遺跡から、浮子や祭祀具をはじめ、井戸枠の部材といった大形の木製品に至るまで多量に出土している。現在、これら木製品等の量は大型水槽11槽と平箱約300個分に及び、崩壊を防ぐためほとんどが水漬けの状態で保管されている。しかしこの措置はあくまで緊急避難的なものであり、水漬け保存された遺物の多くが依然として劣化に伴う崩壊の危機にさらされている。しかも、水漬けのままでは一般公開も難しく、発掘調査成果を市民へ還元するという観点からも、遺物を乾燥状態で保存できるようにするための処理を早く施すことが必要である。

現在のところセンターでは保存処理施設や技術を持っていないため、保存処理が必要な遺物については外部の専門業者に委託する方法をとっている。保存処理の工程は下記のとおりである（□で囲んだ範囲はセンターで行っている事前及び事後工程の部分）。

洗浄－実測・写真撮影…委託先へ搬出…薬品含浸－成形・調整…遺物返却…処理後の写真撮影－カード記入

過去の保存処理状況 平成5（1993）年度からの的場遺跡出土木製品等の委託処理に着手し、平成8（1996）年度からは小丸山遺跡・山木戸遺跡出土遺物に範囲を広げるなど、現在まで段階的に保存処理を実施している。また、木製品の場合、1点の実測に1日以上の間がかかることから、平成12（2000）年度以降は未実測のものを中心に実測図の作成を先行し、遺物の状態を把握することを目的として作業を行ってきた。

(2) 今年度の業務内容

平成14（2002）年度は文化庁補助金により緒立遺跡（C地点）出土井戸部材一式と山木戸遺跡出土遺物の薬品含浸処理を委託により実施した。

①緒立遺跡出土遺物：東都文化財研究所に委託した。今年度は井戸（SE22）枠9点について、真空凍結乾燥法により処理を行った。

②山木戸遺跡出土遺物：元興寺文化財研究所に委託した。今年度は井戸（SE13）出土の曲物1点について、アルコール・キシレン・樹脂法により処理を行った。

(3) 今後の展望

市指定文化財を含め、保存処理を必要とする遺物はまだ大量に残っているが、これらの処理を全て外部に委託すると数千万円の費用が必要となる。そこで、今後は保存処理を効率的に行い、また経費を抑制するため、一部の大型品や高度の処理技術を必要とするものに限り外部委託する一方、その他の遺物についてはセンター直営で実施可能な方法によって処理し、より多くの遺物を滅失から救う方策を探ることが急務である。

6 普及活動

(1) いがた歴史塾

いがた歴史塾について 歴史課の事業として実施しているもので、市民に歴史と文化について学ぶ機会を提供し、理解を深めてもらおうと企画されている。本年度で3年目に当たる。

平成14（2002）年度の事業 平成14年度は、市内遺跡出土遺物の展示会を行った。これは今後数年がかりで新潟市域を地区ごとに巡回していこうとの試みであり、今年がその初年度となる。

展示会では、住民にとって最も関心が高いと思われるその地域ゆかりの遺跡から出土したものを展示するよう配慮し、調査実績のない地域では近隣の遺跡から出土した遺物を展示した。また、来場者を対象とし、展示テーマに沿った内容の小規模な説明会(豆講座)を合わせて実施した。

今年第1回目を南地区（曾野木・両川）で、第2回目を西地区（内野）で行った。

①第1回にいがた発掘物語

会 場：曾野木地区公民館2階ロビー

日 時：平成14年9月7日(土)・8日(日)

来場人数：30名

展示資料：縄文時代（大江山地区の遺跡から）

弥生時代（緒立遺跡）

古墳時代（緒立遺跡・石動遺跡）

奈良・平安時代（的場遺跡）

中世（大藪遺跡）

近世（小丸山遺跡）

豆 講 座：「遺跡が発見されるまで」「展示資料解説」

②第2回にいがた発掘物語

会 場：西地区公民館

日 時：平成14年11月30日(土)・12月1日(日)

来場人数：35名

展示資料：弥生～古墳時代（六地山遺跡・緒立遺跡・的場遺跡・石動遺跡・東囲遺跡）

豆 講 座：「内野地区の遺跡」「弥生時代の土器・古墳時代の土器」

(*) 六地山遺跡出土遺物は長岡市教育委員会より借用した。

来年度以降、より多くの市民に来場いただくよう工夫したい。

(2) その他の普及活動

学校現場との連携 近年盛んになっている小中学校の「総合的な学習の時間」に伴う各種の講演・展示も、要請に応じて可能な限り実施した。

他組織との連携 市立新通小学校において、新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下「事業団」）と共同で普及活動を行なった。他組織と協力することにより単体では実施が難しい大規模な普及活動を可能とした、初めての事例として貴重な経験となった。新通小学校の要請により、来年度以降も引き続き実施する予定である。

日 時：平成14年 9月13日(金) 午後1時45分～5時

会 場：新潟市立新通小学校 体育館・グラウンド

趣旨・ねらい：1学期に学習した社会科の原始・古代について、遺物の観察や専門家の説明、各種実習などを体験することにより、学習内容の定着と深化を図る。

主な内容：火おこし実習・縄文土器レプリカによる調理体験・石器製作体験（以上事業団担当）・新潟市内遺跡出土遺物の展示と説明（以上センター担当）

参加人数：児童（6年生）130名、保護者100名、担当教員4名、事業団3名、センター2名

以上、本年度実施した普及活動については、表11にまとめた。

内容	実施日	主催	講演者	場 所	参加者数	遺物展示	内 容
新潟市の遺跡について (講演・遺物展示)	H14.7.9	大江山中学校	廣野耕造 朝岡政康	大江山中学校体育館	289名	大江山地区の遺跡(東園遺跡等)	OHPやビデオなどを使い市内遺跡の特徴や時代について講演。また土器に触れる体験学習を実施。
にいがた発掘物語①	H14.9.7～8	センター	諫山えりか	曾野木地区公民館	30名	本文参照	にいがた歴史塾の一環として実施。詳細は本文参照
体験学習と遺跡についての講話 (学習参観)	H14.9.13	新通小学校 P T A	(センター) 渡邊ますみ 廣野耕造	新通小学校体育館 及びグラウンド	234名	緒立遺跡 場的遺跡	火おこしや石器使用体験、屋外で土器を使った煮炊きをするなどの体験学習を実施。市は遺物展示及び説明を担当。
職場体験学習	H14.9.27	宮浦中学校	センター職員	センター	3年生1名		総合学習の一環で生徒がセンターを訪れ、発掘調査について学習したり、実際の整理作業を体験した。
大淵遺跡出土遺物 展示会(大淵小学校創立 130周年記念事業)	H14.11.16・18	大淵小学校	朝岡政康 廣野耕造	大淵小学校特別教室	332名	大淵遺跡 小丸山遺跡	大淵小学校の130周年記念式典にて大淵小学校の歴史を振り返る企画の中で、展示参加。解説などを行う。
にいがた発掘物語②	H14.11.30～ 12.1	センター	諫山えりか	西地区公民館	35名	本文参照	にいがた歴史塾の一環として実施。詳細は本文参照
動く市政教室 -文化財を訪ねて-	H15.3.13・ 15・18・19	市民相談室 歴史文化課	センター職員	センター	各回40名		センター収蔵の資料を見学してもらう。また埋蔵文化財調査について説明を行う。

表11 平成14年度に実施した普及活動一覧



写真25 第2回にいがた発掘物語（豆講座）



写真26 大淵小学校での出張展示



写真27 新通小学校での普及活動（遺物説明）



写真28 新通小学校での普及活動（遺物説明）

Ⅲ 的場遺跡 昭和45（1970）年調査の出土遺物

1 はじめに

昭和60（1985）年の境界変更により範囲全域が新潟市地籍になった的場遺跡は、昭和45年（1970）に黒埼村教育委員会（当時）により緊急調査として、遺跡最初の本格的な発掘調査が実施されている（8月14日～8月23日）。当時ではまだ珍しい地方自治体が調査主体となった事例で、経費は国・県の補助を受けた。

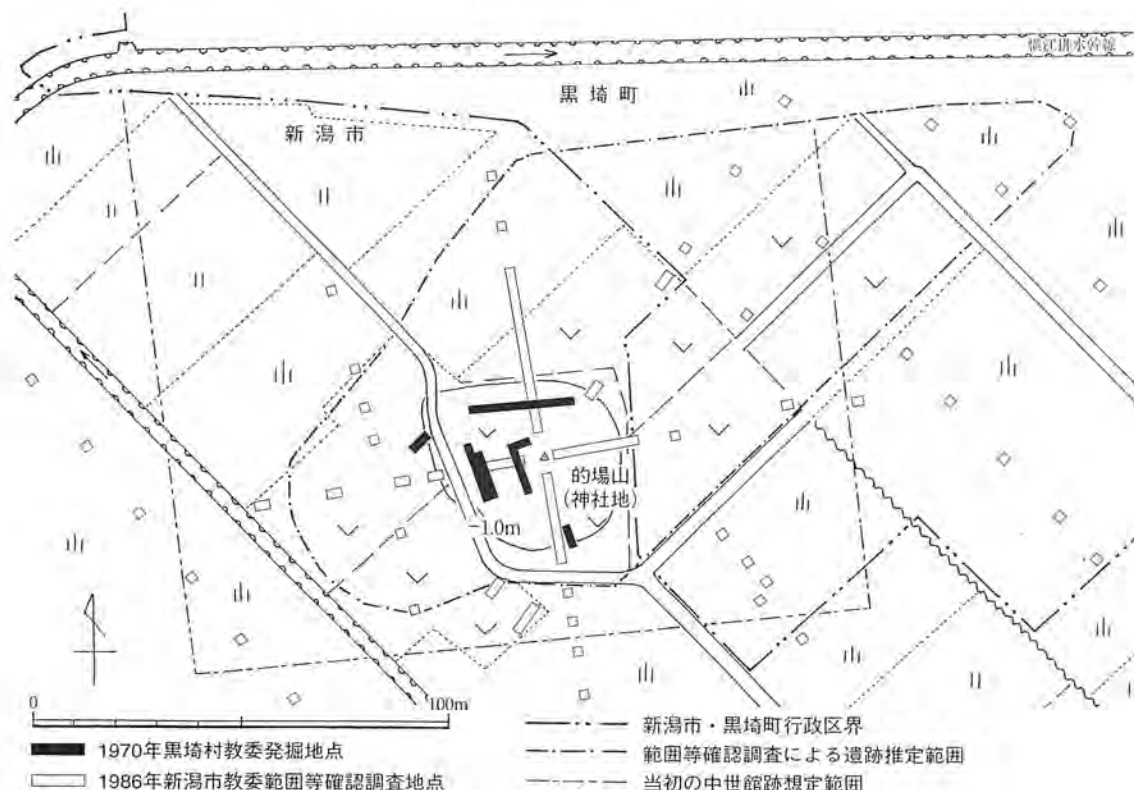
この調査では、縄文時代晩期から古墳時代前期、平安時代、中世の複合遺跡であることが判明した。

ここで紹介する遺物は、未整理のまま旧黒埼町（村）教育委員会で保管されていたものであり、一部報告書（黒埼村教育委員会1971、新潟市教育委員会1993）で紹介されているものの、長い間公表されることがなかったものである。現在のところ、現場図面などの調査資料は見つかっておらず、個々の遺物の出土状況を詳しく知ることはできないが、付けられていた荷札の記載事項に出土地点を表している数字があり、遺物へはその内容全てを注記した。遺跡名は一部既存する注記にならい、「O」で表してある。

なお、紙面の都合上、調査経緯や調査内容については割愛した。「新潟県的場遺跡緊急調査報告書」（1971年3月 新潟県西蒲原郡黒埼村教育委員会）を参照されたい。

2 調査地点（第23・24図）と層序

A～EとA'（Aの拡張区）のトレンチ6本を幅2mで設定し、さらにその中を2mごとに区切って1区画2m×2mのマスをつくっている。Aトレンチで確認された層序は、上から褐色砂層（耕作土）、赤褐色粘土層、灰色粘土層、黒褐色砂層、暗褐色砂層（基盤砂層）となっており、ほぼこれが基本層序と思われる。このうち遺物包含層は黒褐色砂層であり、掲載遺物の多くは、ここから出土したものである。

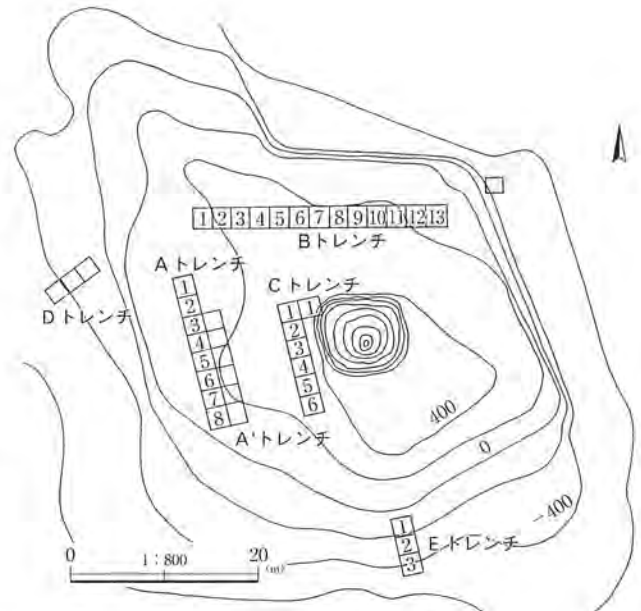


第23図 調査地（新潟市教育委員会1993より引用、一部改変）

3 出土遺物の概要

保管されていた遺物は、テンバコで約8箱（報告書では「石油缶約2杯」と記載されている）である。一番多いのは、平安時代の土器で4箱、他に古墳時代の土器2箱、縄文土器・弥生土器・中・近世の遺物0.5箱、石器0.5箱、鍛冶関係遺物1箱が出土している。小さい破片が多く、接合率は低い。

なお、縄文土器・弥生土器については新津市教育委員会渡邊朋和氏、奈良・平安時代の土器については新潟県埋蔵文化財調査事業団春田真実氏、石器については同鈴木俊成氏から御教示いただいた。



第24図 トレンチ設定図

(黒埼村教育委員会1971より引用、一部改変)

(1) 縄文土器・弥生土器 (第25図)

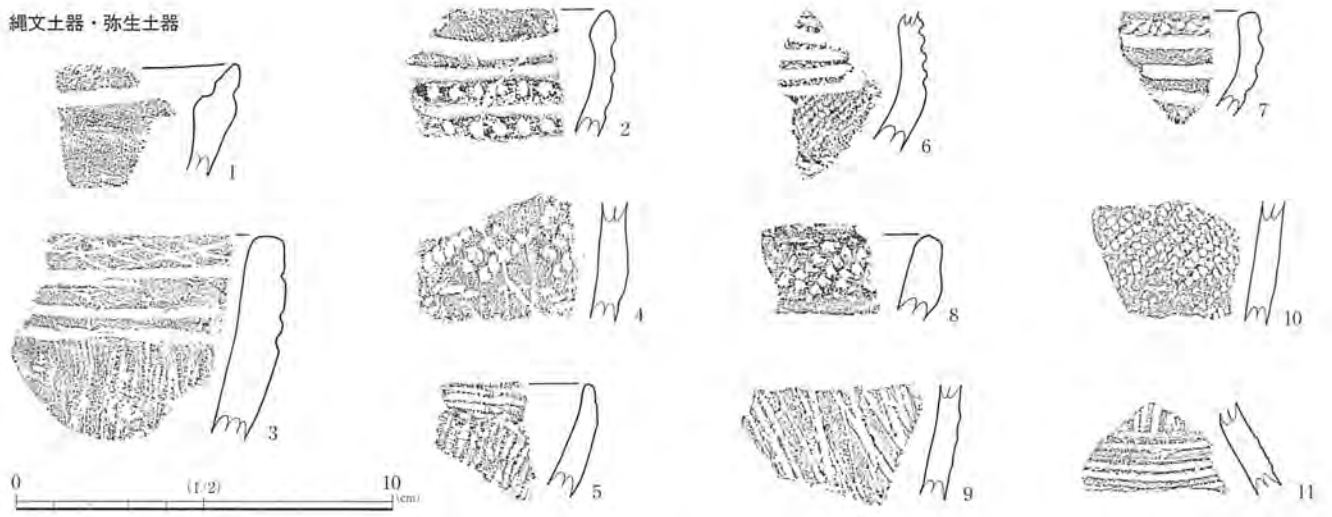
縄文土器4点、弥生土器7点、時代不明土器1点を掲載した。

縄文土器は1～4で、1・2は鉢、3・4は粗製深鉢。縄文時代晩期大洞C2末～A古(1・3)、大洞A古(2)の特徴を持つ土器である。弥生土器は、鉢(6・7)、深鉢(8～10)、壺(11)が出土しており、時期的には前期(6～9)と中期(11)で捉えられる。いずれも近接する緒立遺跡で見られる土器の特徴とかわらない。

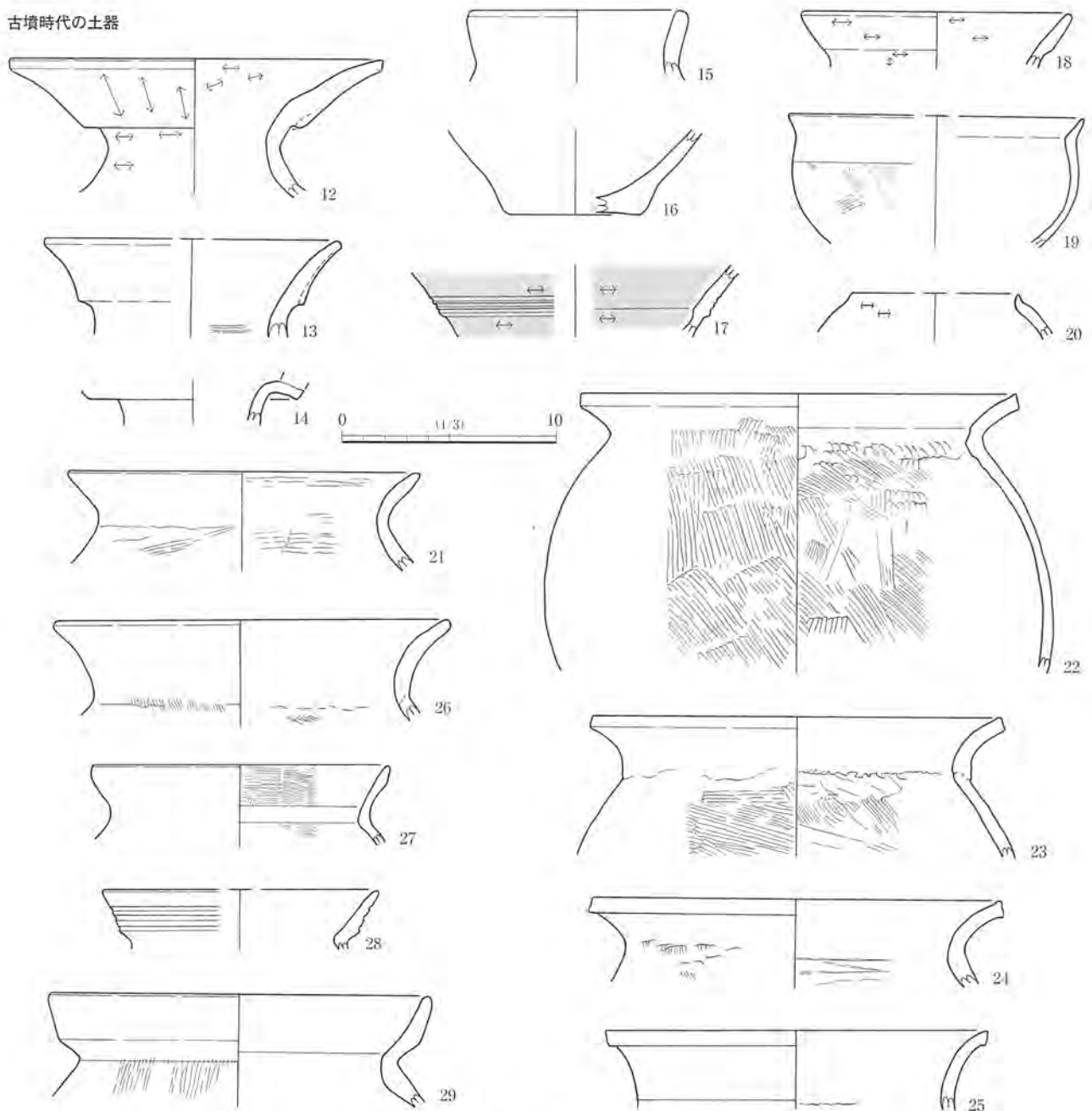
(2) 古墳時代の土器 (第25・26図)

壺・甕・鉢・高杯・器台が出土している。12～16・20は壺。12～14は有段口縁をもつものである。12・13は口縁部外面に粘土を貼付け段を作り出しており、14は頸部から外側へ屈曲させた端部に口縁部を付け足している。いずれも外面はヘラミガキが施されている。15は直立する口縁部をもち、その端部が厚く丸く収まる壺、16は壺の底部。20は口縁部がわずかにつまみ上げられた無頸の壺。17～19は鉢とした。17・18は有段口縁をもち、内外面をヘラミガキするもので、壺と同じような調整をしている。17は口縁部に3本の横位の凹線がみられ、内側はわずかな段をもつ。また、内外面が赤彩されている。19は口縁部が外側に小さく屈曲するものである。丁寧な器面調整をしている。21は外面がヘラミガキのような調整がされているが、破片資料によるものであり、口縁部の形態から甕とした。口縁部端部は先細りで丸く収まり、内面にはわずかにハケメがみられる。22～26は口縁部が「く」あるいは「コ」の字状に外反し、体部のハケメ、口縁部のヨコナデを特徴とする。越後に一般的にみられる特徴である。22～25は口縁端部が明瞭な面をもつもの、26は口縁端部が丸く収まるものである。22・23は上半部しか遺存していないが、その部位での復元率は良い。報告書(前掲)では出土状況の写真が掲載されており、両者は一括資料と捉えられるものである。27は基本的には在地の甕であるが、口縁部内面にハケメを明瞭に残すところは近江あたりの影響がうかがえる。28・29は有段口縁の甕。28は口縁部外面に3本の横位の凹線がみられる。30はハケメなどの調整や胎土が在地的であるが、器形において底部の出っ張りが目立ち、やや特異な甕である。内面には炭化物、外面にはススが付着している。31は器台の脚部。受部と脚部外面には赤彩が施されている。32～35は高杯の杯部(32)と脚部(33～35)。いずれも外面にはヘラミガキが施され、赤彩されているもの(32・35)もある。

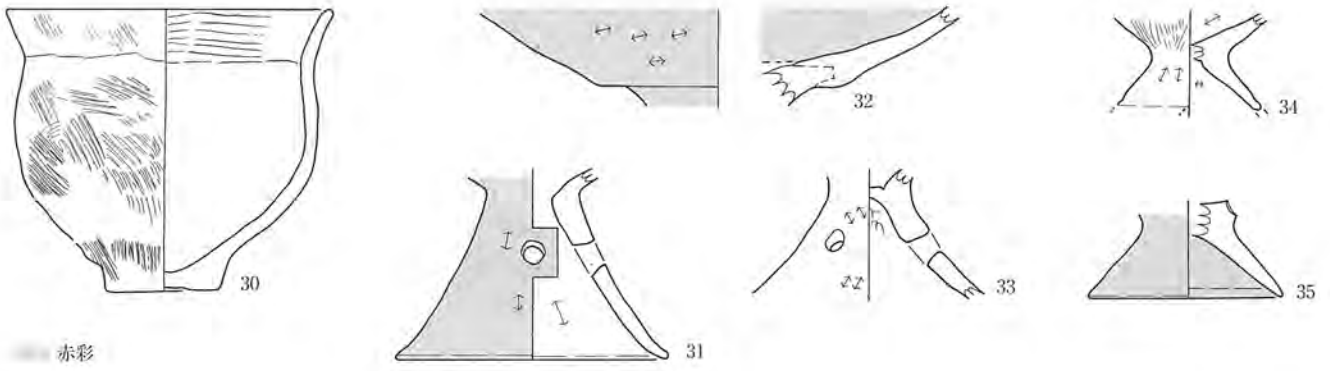
縄文土器・弥生土器



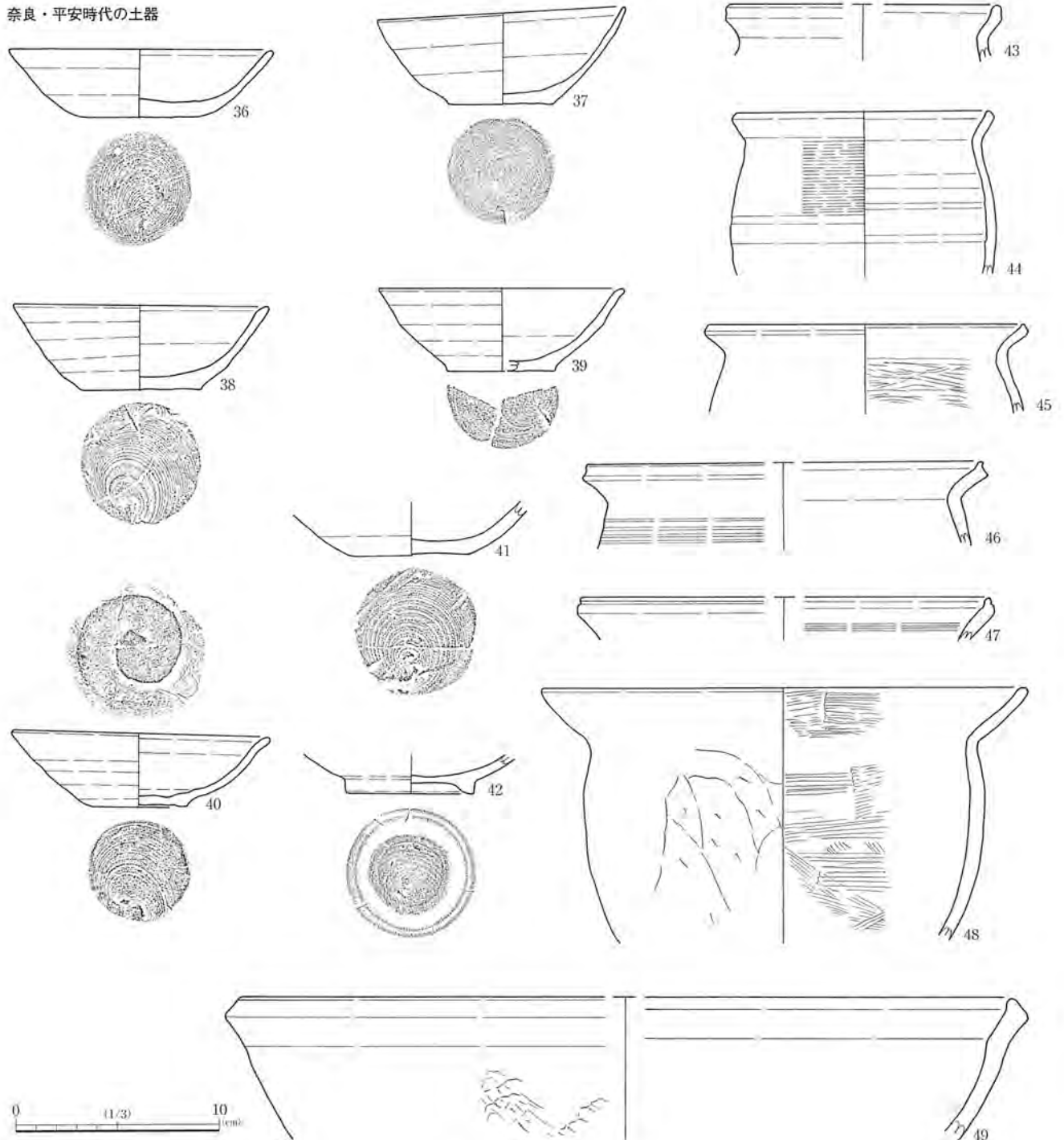
古墳時代の土器



第25図 出土遺物実測図



奈良・平安時代の土器



第26図 出土遺物実測図

(3) 奈良・平安時代の土器 (第26・27図)

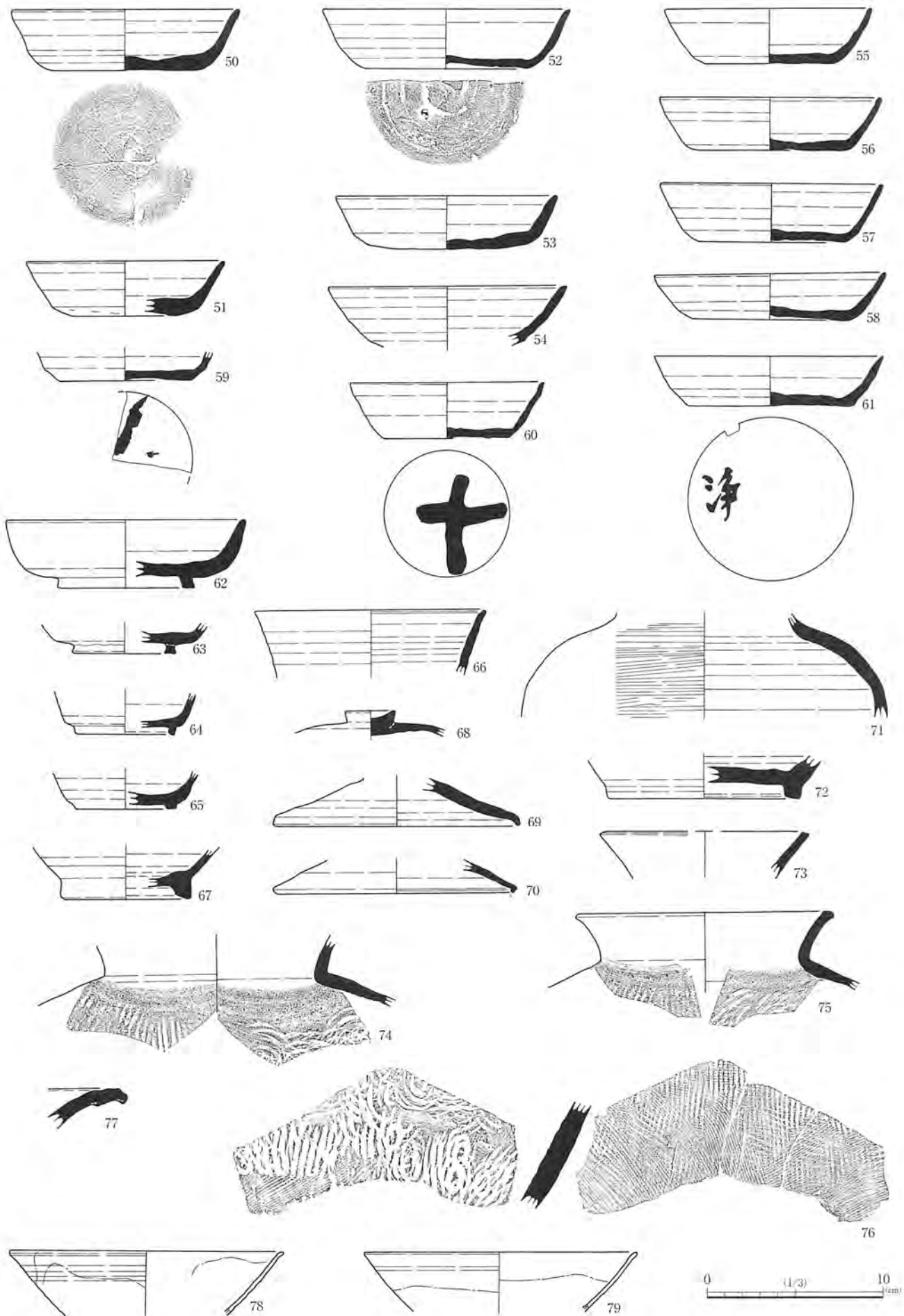
36～41は土師器の無台碗。いずれも砂粒を多く含む胎土で、海綿骨針がみられるもの(41)もある。ロクロ成形で、底部外面には糸切り痕がみられる。36・37は口縁部が直線的あるいは若干内湾気味に立ち上がり、体部は滑らかである。9世紀後半～末に位置づけられるものである。38～41はロクロ痕が顕著に残るもので、口縁部上方がやや外反する。10世紀に下るものである。42は土師器有台碗か皿。調整はナデが主体となっているが、糸切り痕を残したまま、高台を貼り付けている。43～48は土師器甕。43～45は小甕で、いずれもロクロ成形。43・44はほぼ同じ法量・技法で、口縁部には煮炊きの痕跡であるスス・コゲがみられる。45は砂粒を多く含み、体部内面に目の粗いハケメが見られ、他の小甕とは特徴を異にしている。口径も若干大きい。外面は二次被熱のために器面が剥落しているが、ススやコゲは付着していない。46・47はロクロ成形の長胴甕。口縁部端部に面を持ち、内側端は上方につまみ上げられている。46には体部上半にカキメがみられ、47も同じ調整痕を持つものと思われる。48は非ロクロ成形の甕で、砂粒を多量に含む。口縁部から体部への形態や大きさから長胴甕と思われたが、体部はそれほど延びず短胴で特異な器形である。体部の内面に細かい目のハケ状工具によるナデ、外面に縦方向のヘラケズリの痕跡がみられる。49は土師器鍋。体部から口縁部への立ち上がりは明瞭な屈曲をもたず、口縁部は内面の稜とわずかな外反によって作り出される。口縁部から体部上半はロクロナデ、外面下半はケズリが施されている。

50～70は、須恵器杯・碗類の身と蓋である。新津丘陵産・阿賀北産・佐渡小泊産の製品が認められるが、貯蔵具を中心に生産地が特定できないものもある。佐渡小泊産が多く、遺跡の時期的な特徴(盛衰)を表しているともいえる。50～61は無台杯。底部外面に刻書(50・52)や墨書(59～61)をもつものがある。50・51は新津丘陵産で、体部下半から底部にむけて器壁が厚い。52・53は、胎土に小礫を多く含む阿賀北産。54～61は佐渡小泊産で、器壁が比較的薄く、ロクロ目が顕著なものが多い。時期は50が8世紀後半、それ以外は9世紀前半～中葉に属するものである。62～66は有台杯。器形にバリエーションがみられ、身が浅く底径に対する口径比が大きいもの(62・63)、やや小振りで口径比が小さいもの(64・65)、身の深いもの(66)がある。67は有台碗。体部の立ち上がりやや丸みをもっている。62・63・66(新津丘陵産)以外は佐渡小泊産である。62・63は8世紀後半、64～66は9世紀前半～中葉、67は10世紀に属する。68～70は佐渡小泊産の杯蓋であり、68・69は9世紀前半～中葉、67は9世紀後半に属する。71～76は須恵器の瓶壺類。71は新津丘陵産の短頸壺。外面に自然釉が少しみられる。72は佐渡小泊産の瓶壺類の底部。73は新津丘陵産の横瓶で、外面が少し剥落している。時期はいずれも不明である。74～77は甕類。74～76は新津丘陵産であるが、時期は不明。76はやや焼成があまく、若干の軟質感がある。77は阿賀北産の可能性があるので、9世紀前半に位置づけられるものである。いずれも外面に平行文の叩き目、内面に同心円の当て具痕がみられる。

78・79は漬け掛けの灰釉陶器碗で、釉薬が薄く光沢がほとんどみられない。器壁が非常に薄く、ロクロ目が細かい。時期的には、灰釉陶器の量産が始まっている10世紀後半に比定されるものであろう。

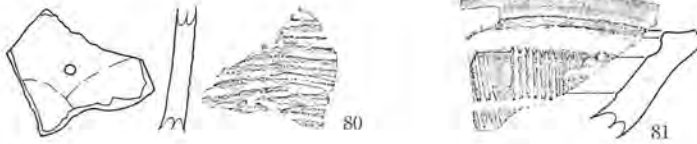
(4) 中・近世陶器 (第28図)

80は珠洲焼の甕。内面にはわずかに円形の当て具痕が残る。81は越前焼の播鉢。16世紀代のものと思われる。82は肥前陶器の播鉢。見込み中央から上へ向かって放射状に播目を入れている。底部外面には糸切り痕がみられる。17世紀代のものであろう。

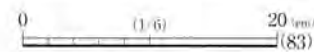
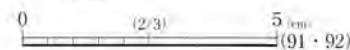
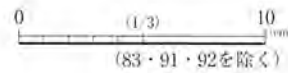
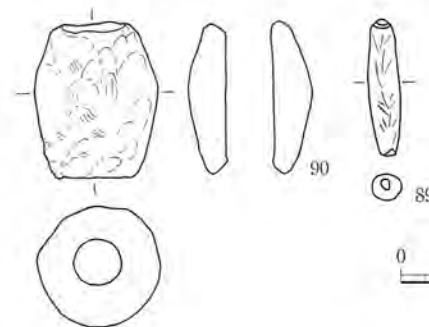
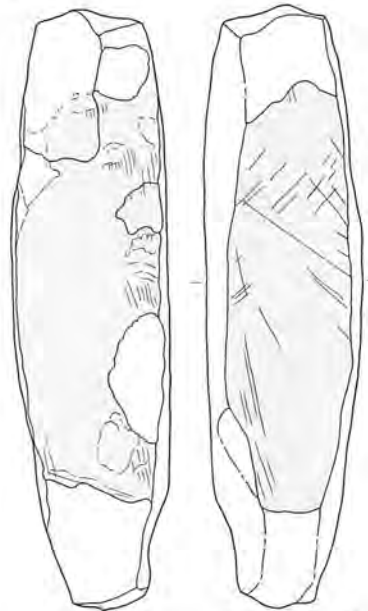
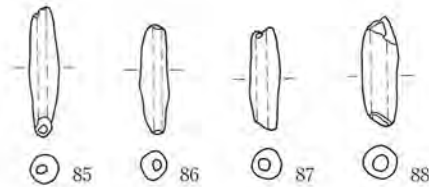
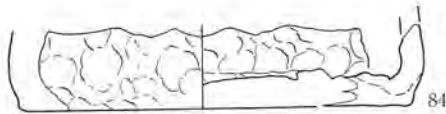
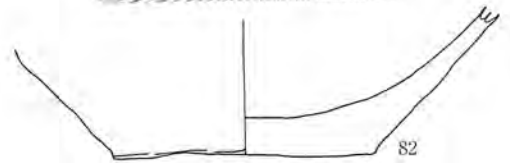
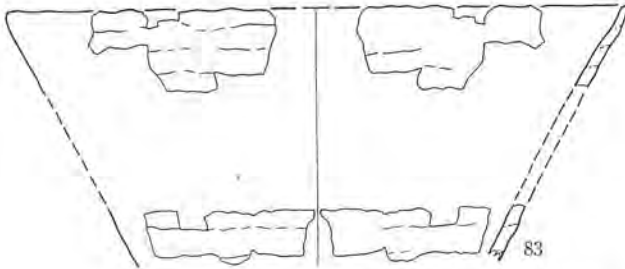


第27図 出土遺物実測図

中・近世陶器



土製品・石器・石製品



使用面



使用面

第28図 出土遺物実測図

(5) 土製品・石器・石製品 (第28図)

83・84は製塩土器。両者には法量に大きな差がみられるが、胎土はよく似ている。ともに、輪積み痕・指頭圧痕が顕著に残る。また、被熱による変色もみられる。

85～90は管状の土錘。細形(85～89)と太形(90)のものがあり、孔内はほぼ均一の径である。両端は綱紐が擦れた小さな欠損が見られる。細形は製作時の手の圧痕が残ることも多いが、89は文様のような短い線(矢羽状)が刻まれている。重量は細形が5～6g、太形が120gである。

91は玉髓の石鏃。表面が磨耗しており、調整痕がはっきりしない。

92は管玉。端部に、わずかな欠損がみられる。重量は1.2g。

93・94は凝灰岩の砥石。93は表裏2面を使用しているが、側面の一部に磨耗がみられ、そこで荒研ぎを行った可能性もある。線刻のような擦痕もあり金属器を研いだ可能性もある。重量1,260g。94は使用の頻度は異なるようであるが、4面を使用している。重量170g。

(6) 鍛冶遺物 (写真31)

鍛冶が行われていたことがわかる遺物が多数出土しており、写真で紹介する。95は鍛造品の破片と思われるもの。96～98はファイゴの羽口、99～101は椀形滓、102は炉壁である。

3 まとめ

出土した遺物の様相は、平成元・2年に実施された発掘調査（調査対象面積約4,530㎡）で捉えられた様相と大きく変わるところはないが、調査地点が遺跡の中で標高の高いところであるということから、木製品や漁具などは少ない。時期的にはやはり平安時代の土器が多く、須恵器坏・土師器椀などが目立つ。また中世（近世）の陶磁器も出土している。注目されるものとしては、鉄滓やファイゴの羽口が狭い調査面積にもかかわらず一定量出土しており、報告書（前掲）では火床とみられる窪みも見られることから小鍛冶遺構と考えられている。また、製塩土器も出土していることから、水産を中心としたいくつかの生産機能を有する遺跡の一側面を語る様相である。

引用・参考文献

新潟県西蒲原郡黒埼村教育委員会1971『新潟県的場遺跡緊急調査報告書』

新潟市教育委員会1993『新潟市的場遺跡 的場土地地区画整理事業用地内発掘調査報告書』

黒埼町教育委員会1983『緒立遺跡発掘調査報告書』

黒埼町町史編さん原始・古代・中世部会編1998『黒埼町史 資料編1 原始・古代・中世』 黒埼町

出土遺跡観察表

凡例：出土地のアルファベットはトレンチの名称、数字はトレンチ内のエリア（マス目）番号（第24図参照）。口-口縁部、頸-頸部、体-体部、底-底部、脚-脚部、受-受部、内-内面、外-外面、胎-胎土、→は作業の前後関係を表す。遺存で「欠」と記してある場合は記載してある部位が欠損していることを表す。法量で「孔」と記してあるのは孔の径をいう。色調は『新版 標準土色帖 17版』（日本色研事業株式会社）を使用した（土色名のみ）。

表12-1 縄文・弥生時代の土器（第25図）

図示 番号	出土地	種別	器種	遺存	法量 (cm)			技法	備考
					口径	底径	器高		
1	G-12	縄文土器	鉢	口破片	-	-	-	内・外-沈線	にぶい黄橙
2	G-5	縄文土器	鉢	口破片	-	-	-	外沈線・刺突	浅黄橙
3	G-11	縄文土器	粗製深鉢	口破片	-	-	-	外網目状捺糸文・沈線・条痕文、内-ミガキ	褐色
4	G-11	縄文土器	粗製深鉢	体破片	-	-	-	外LR結節縄文	にぶい黄褐色、外スス
5	B-10	弥生土器?	粗製深鉢	口破片	-	-	-	外RLO段多条	暗褐色、内・外スス
6	G-2	弥生土器	鉢	口破片	-	-	-	外LR・工字文	にぶい黄橙
7	不明	弥生土器	鉢	口破片	-	-	-	外LR・工字文	褐灰、外（下半）スス
8	G-2	弥生土器	深鉢	口破片	-	-	-	外擬縄文	にぶい橙
9	不明	弥生土器	深鉢	体破片	-	-	-	外条痕文	にぶい黄橙
10	C区一括	弥生土器	深鉢	体破片	-	-	-	外LR	褐灰、外スス
11	不明	弥生土器	壺	体破片	-	-	-	外条痕文	にぶい黄橙

表12-2 古墳時代の土器 (第25・26図)

図示 番号	出土地	種別	器種	遺存	法量 (cm)			技 法	備 考
					口径	底径	器高		
12	G-7	土師器	壺	口1/5	17.4	-	-	口-内外ミガキ、	にぶい黄橙色、砂・小礫(径1mm)含む
13	C-5(拡張)	土師器	壺	口1/6	(13.6)	-	-	口-内外ヨコナデ、有段部分貼付け	にぶい黄橙色、砂含む
14	C-6(拡張)	土師器	壺	頸1/4	-	-	-	頸-弱いミガキ	にぶい橙色、砂少量含む、内スス
15	G-3	土師器	壺	口1/6	9.8	-	-	口-内ハケメ→ヨコナデ	橙色、
16	A-6(東拡張)	土師器	壺	底1/3	-	6.4	-	体-外ミガキ	粗粒含む、灰白色
17	G-12	土師器	鉢	口一部	-	-	-	体-内外ミガキ、赤彩、外-3条凹線	赤彩、砂少量含む
18	G-12	土師器	鉢	口1/6	12.2	-	-	口-内外ミガキ、内黒色処理?	灰黄褐色、砂少量含む
19	G-12	土師器	鉢	口~体1/8	(13.8)	-	-	口-内外ヨコナデ、体-外ハケメ一部	にぶい橙色、内外スス
20	G-12	土師器	甕	口1/8	(6.8)	-	-	外ミガキ	にぶい黄橙色
21	G-1	土師器	甕	口1/6	16.3	-	-	体-内外ハケメ→口-内外ヨコナデ	にぶい黄橙色、小礫含む
22	A-3	土師器	甕	口~体上半	20.2	-	-	体-内外ハケメ→口-内外ヨコナデ	にぶい黄橙色、砂含む、外スス
23	A-3	土師器	甕	口~体上半1/2	18.9	-	-	体-内外ハケメ→口-内外ヨコナデ	にぶい橙色、砂含む、外スス
24	C-6	土師器	甕	口1/5	16.8	-	-	体-内外ハケメ→口-内外ヨコナデ	にぶい黄橙色、砂・小礫(径1mm以上)含む
25	G-2	土師器	甕	口1/10	17.6	-	-	口-内外ヨコナデ	にぶい褐色、細かい海綿骨針含む
26	G-3	土師器	甕	口1/4	18.4	-	-	口-内外ヨコナデ→体-ハケメ	にぶい黄橙色、外スス、小礫(径0.5~2mm、1mm多)含む
27	G-3	土師器	甕	口1/6	13.8	-	-	口-内ハケメ→下方ヨコナデ、外ヨコナデ	口ややゆがみ有り、橙色、砂・石英・海面骨針含む
28	G-1	土師器	甕	口1/12	(12.8)	-	-	口-外3本擬凹線	にぶい橙色、砂・細かい海綿骨針含む、焼成やや軟質
29	G-2	土師器	甕	口1/5	17.6	-	-	体-外ハケメ→口-ヨコナデ	にぶい黄橙色、砂・礫(径0.5~1mm)含む、外スス
30	A-3	土師器	甕	口・体一部欠	13.3	4.7	11.4	体-ハケメ→口-弱いヨコナデ	浅黄橙、底内付近コゲ、体外下半スス
31	C-12	土師器	器台	脚1/4	-	10.8	-	ミガキ・赤彩、内端ヨコナデ	にぶい黄橙色、砂含む、焼成良好
32	B-12	土師器	高杯	受1/8	-	-	-	受-内?外ミガキ・赤彩	内器面の荒れ著しい、にぶい黄橙色、砂・礫(径1mm)含む、焼成良好
33	Aピット	土師器	高杯	脚1/2	-	-	-	脚-外ミガキ、孔3ヶ所	灰白色、砂含む、焼成はやや甘い
34	G-3	土師器	器台	脚1/3	-	-	-	脚-外ミガキ、孔?	橙色、細かい海綿骨針・新砂含む、焼成良好
35	G-3	土師器	器台	脚1/2	-	7.5	-	脚-内外ミガキ・赤彩	明褐色、砂含む、焼成は良好、

表12-3 奈良・平安時代の土器 (第26・27図)

図示 番号	出土地	種別	器種	遺存	法量 (cm)			技 法	備 考
					口径	底径	器高		
36	B-4	土師器	杯	体3/4	13	5.7	3.4	ロクロナデ、底-外糸切り	浅黄橙色、口-一部スス
37	B-4	土師器	椀	ほぼ完形	12.4	5.2	4.9	ロクロナデ、底-外糸切り	にぶい橙色、底外除いてスス?
38	B-8	土師器	椀	ほぼ完形	12.7	4.8	3.8	ロクロナデ、底-外糸切り	にぶい黄橙色、口-内一部スス
39	B-4	土師器	椀	1/2	12.2	5.4	4.1	ロクロナデ、底-外糸切り	浅黄橙色、砂含む、焼成良好、内外-一部スス
40	A-4	土師器	椀	ほぼ完形	12.5	6	4.3	ロクロナデ、底-外糸切り	にぶい橙色、砂含む、焼成良好、
41	A-8	土師器	椀	底	-	6	-	ロクロナデ、底-外糸切り	にぶい黄橙色、礫(径1mm)・細かい海綿骨針含む
42	B-6	土師器	有台椀カ	底	-	6.5	-	ロクロナデ、底-外糸切り→貼付高台	浅黄橙
43	Aピット	土師器	甕	口1/6	(13.2)	-	-	ロクロナデ	灰白色、口内コゲ、体スス
44	Bピット壁	土師器	甕	口~体1/6	12.4	-	-	ロクロナデ、カキメ	にぶい橙色、口-内(上端)外コゲ、体-部分的スス
45	Bピット	土師器	甕	口2/5	15.6	-	-	ロクロナデ、体-内ハケメ	灰白色、砂多量に含む、外二次被熱のため器面剥落
46	Bピット	土師器	甕	口縁~体1/4	(19.4)	-	-	ロクロナデ、体-内弱いハケメ、外ヘラケズリ	にぶい黄橙色、砂多量に含む
47	A-7	土師器	甕	口一部	(20)	-	-	ロクロナデ	にぶい橙色、口縁端部外面凹線、二次被熱?
48	B-4	土師器	甕	口一部	23.8	-	-	ロクロナデ、体-外カキメ、	にぶい橙色、礫(径1mm前後)含む、焼成良好
49	Aピット	土師器	鍋	口~体1/6	(38.2)	-	-	ロクロナデ、内~外ヨコナデ、外下方ヘラケズリ	灰黄褐色、焼成良好
50	A-8	須恵器	無台杯	体3/4欠	13.2	8.4	3.6	ロクロナデ、底-外ヘラ切り	灰白色、焼成やや軟質、底-外刻書「×」
51	B-3	須恵器	無台杯	1/4	11.4	6	3.2	ロクロナデ、底-外ヘラ切り・外周ヘラケズリ	灰色、焼成硬質
52	Bピット	須恵器	無台杯	1/2弱	14.4	9.4	3.5	ロクロナデ、底-外ヘラ切り	灰白色、礫(径1mm前後)含む、焼成やや硬質、底-外刻書「-」
53	Bピット	須恵器	無台杯	2/5	12.8	9.6	3.1	ロクロナデ、底-(外ヘラ切り→)ナデ	灰色、礫(径1mm前後)含む、焼成硬質、
54	B-2	須恵器	無台杯	口~体1/6	13.8	-	-	ロクロナデ	灰白色、白色粒・海綿骨針含む、焼成やや軟質
55	C-6	須恵器	無台杯	2/5	12	7.6	3.2	ロクロナデ、底-外ヘラ切り	灰色、白色粒含む、焼成硬質
56	B-3	須恵器	無台杯	体3/5	12.6	8.2	3.1	ロクロナデ、底-(外ヘラ切り→)ナデ	灰色、白色粒含む、焼成硬質
57	A-8	須恵器	無台杯	1/2弱	12.6	8.4	3.4	ロクロナデ、底-外ヘラ切り→ナデ	灰色、白色粒含む、焼成硬質

図示 番号	出土地	種別	器種	遺存	法量 (cm)			技 法	備 考
					口径	底径	器高		
58	A-8	須恵器	無台杯	体一部欠	13.2	8.9	2.8	ロクロナデ、底-外ヘラ切り	灰白色、砂含む、焼成やや硬質
59	Bピット	須恵器杯	無台杯	底1/4	-	7.6	-	ロクロナデ、底-外ヘラ切り→ナデ?	灰色、白色粒・海綿骨針をわずかに含む、焼成硬質、底-外墨書
60	A-7	須恵器	無台杯	口~体7/8欠	11.6	7.6	3.3	ロクロナデ、底-外ヘラ切り→ナデ	灰色、底-外墨書「十」、焼成硬質
61	A-7	須恵器	無台杯	口2/3欠	13.4	9.6	3	ロクロナデ、底-外ヘラ切り→ナデ	灰色、底-外墨書「浄」、焼成硬質
62	B-1	須恵器	有台杯	口~体1/6	13.8	7.8	3.9	ロクロナデ	灰色、高台内一部自然釉、焼成硬質
63	G-3	須恵器	有台杯	体下半~底1/6	-	6	-	ロクロナデ	灰色、高台貼付け部分やや変色
64	B-表探	須恵器	有台杯	体下半~底1/6	-	5.6	-	ロクロナデ	灰色、白色粒を含む、焼成硬質
65	G-10石組中	須恵器	有台杯	体下半~底1/2	-	5.8	-	ロクロナデ	灰色、白色粒を含む、焼成硬質
66	B-8	須恵器	有台杯	底1/3	-	7.2	-	ロクロナデ	灰白色、白色粒を含む、粒子やや粗い、焼成やや硬質
67	B-3	須恵器杯	有台碗	体1/6	15.3	-	-	ロクロナデ	灰色、粒子密、焼成硬質、
68	B-3	須恵器	杯蓋	天井部	-	-	-	天-外ヘラケズリ、つまみ貼付け	灰色、白色粒を含む、焼成硬質
69	A-7	須恵器	杯蓋	1/8(つまみ無し)	14.2	-	-	天-外ナデ	灰色、白色粒を含む、焼成硬質
70	B-3	須恵器	杯蓋	1/8(つまみ無し)	13.8	-	-	天-外ナデ	灰色、白色粒を含む、焼成硬質
71	Aピット	須恵器	壺	体上半1/6	-	-	-	体-カキメ・内ナデ	灰色、白色粒を含む、焼成硬質
72	B-2	須恵器	壺	底1/2	-	11	-	体-外ナデ	灰色、底内自然釉少、底外墨痕?
73	B-4	須恵器	壺	口一部	(11.2)	-	-	口-ヨコナデ	白色粒含む、内外自然釉、部分的に器面剥離
74	A-8	須恵器	甕	頸1/4	-	-	-	口-ヨコナデ、体-内同心円あて具痕・外平行文叩き目	灰色、黒色粒・白色粒含む、自然釉少
75	A-2	須恵器	甕	頸1/6	19.6	-	-	口-ヨコナデ、体-内同心円あて具痕→一部ハケナデ・外平叩き具痕	灰色、自然釉少
76	B-1	須恵器	甕	体下半一部	-	-	-	内同心円あて具痕→一部ハケナデ・外平行叩き具痕	
77	B-11~12	須恵器	甕	口一部	-	-	-	口-ヨコナデ・外突帯部分貼付	灰色、不定形小礫(長1mm前後)
78	B-3	灰釉陶器	碗	口~体1/5	15.8	-	-	口~体上半灰釉(漬け掛け)	胎-精良、焼成硬質
79	B-3	灰釉陶器	碗	口~体1/3	15.9	-	-	口~体上半灰釉(漬け掛け)	胎-精良、焼成硬質

表12-4 中・近世陶器(第28図)

図示 番号	出土地	種別	器種	遺存	法量 (cm)			技 法	備 考
					口径	底径	器高		
80	A-7	珠洲焼	甕?	体破片	-	-	-	内-円形当て具痕、外-平行文叩き目	
81	G-3	越前焼	播鉢	口縁部	-	-	-		播目8本? 1単位
82	G-1	肥前陶器	播鉢	底部	-	10.2	-	ロクロ成形、底-糸切り	播目12本

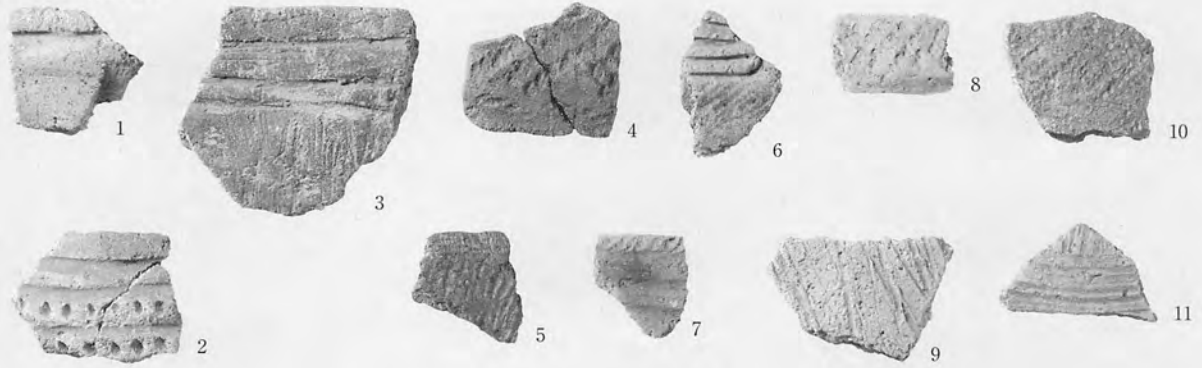
表12-5 土製品(第28図)

図示 番号	出土地	種別	器種	遺存	法量 (cm)			技 法	備 考
					口径	底径	器高		
83	B-4一括	土製品	製塩土器	口、体破片	(49.0)	-	-	輪積み痕、指押さえ痕	にぶい褐色
84	B-4	土製品	製塩土器	底	-	15.2	-	輪積み痕、指押さえ痕	にぶい赤褐
85	B-3	土製品	土錘	ほぼ完形	長5.1	径1.1	孔0.4		灰褐色、胎-精良
86	Bピット壁	土製品	土錘	ほぼ完形	長4.3	径1.0	孔0.3		灰褐色、胎-精良
87	A-3	土製品	土錘	片端欠	(長4.0)	径1.2	孔0.4		灰褐色、胎-精良
88	Aピット	土製品	土錘	片端欠	(長4.3)	径1.4	孔1.6		灰褐色、胎-精良
89	Bトレンチ	土製品	土錘	ほぼ完形	長5.3	径1.1	孔0.3		灰褐色、胎-精良、矢羽状の線刻?
90	B-7	土製品	土錘	完形	長6.1	径4.8	孔1.9		灰褐色

表12-6 石器・石製品(第28図)

図示 番号	出土地	種別	器種	遺存	法量 (cm)			技 法	備 考
					長軸	短軸	厚さ		
91	A-8	石器	石鏃	基部やや欠	2.2	1.3	0.9		玉髓
92	T-6	石製品	管玉	端部やや欠	長1.6	径0.7	孔0.3		碧玉?
93	B-12	石製品	砥石	ほぼ完形	24.0	6.5	6.4		凝灰岩、2面使用、線条痕
94	B-3	石製品	砥石	ほぼ完形	12.0	4.1	1.8		凝灰岩、4面使用

縄文土器・弥生土器



古墳時代の土器

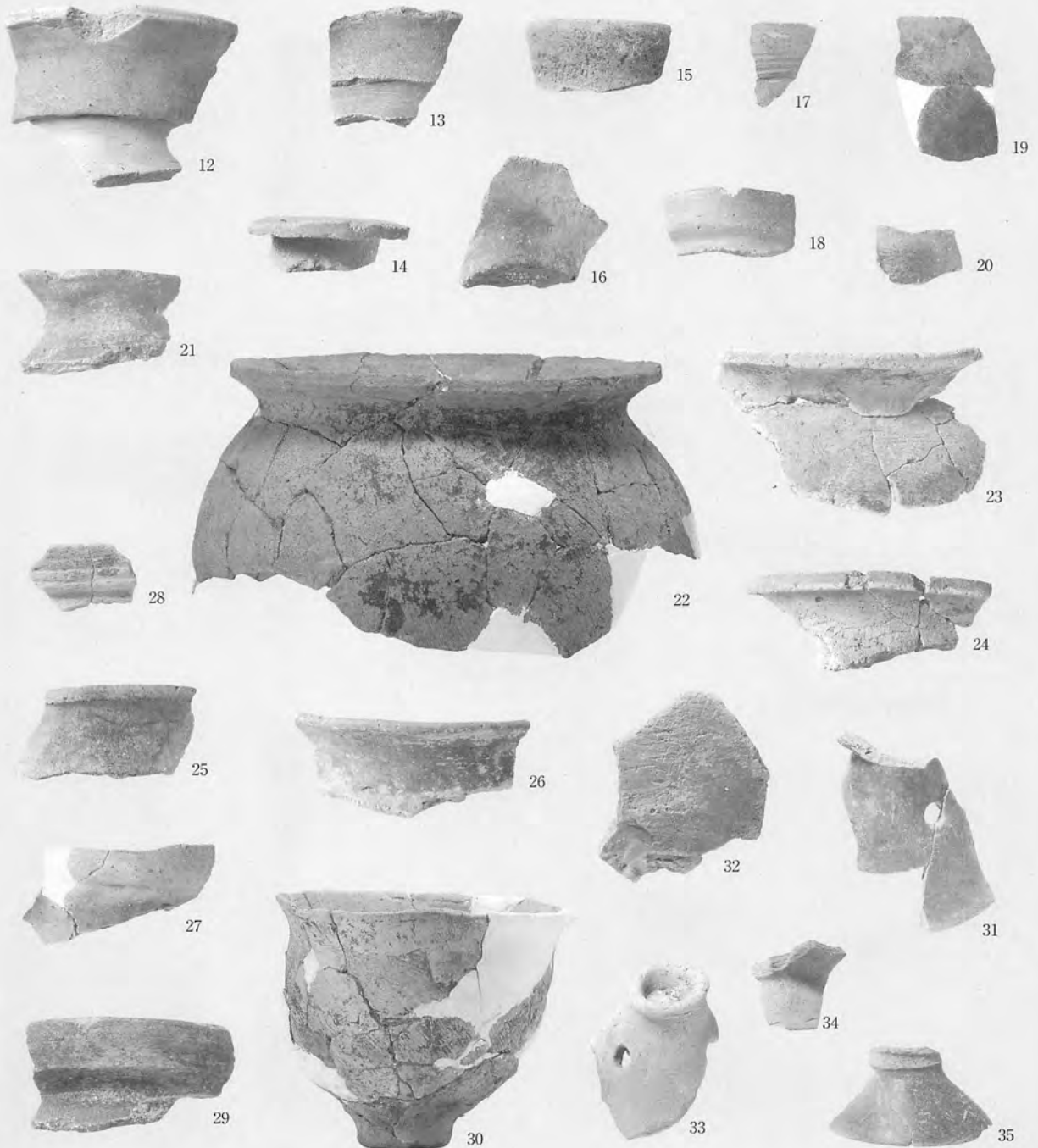


写真29 出土遺物1 (番号及び縮尺は実測図と同じ)

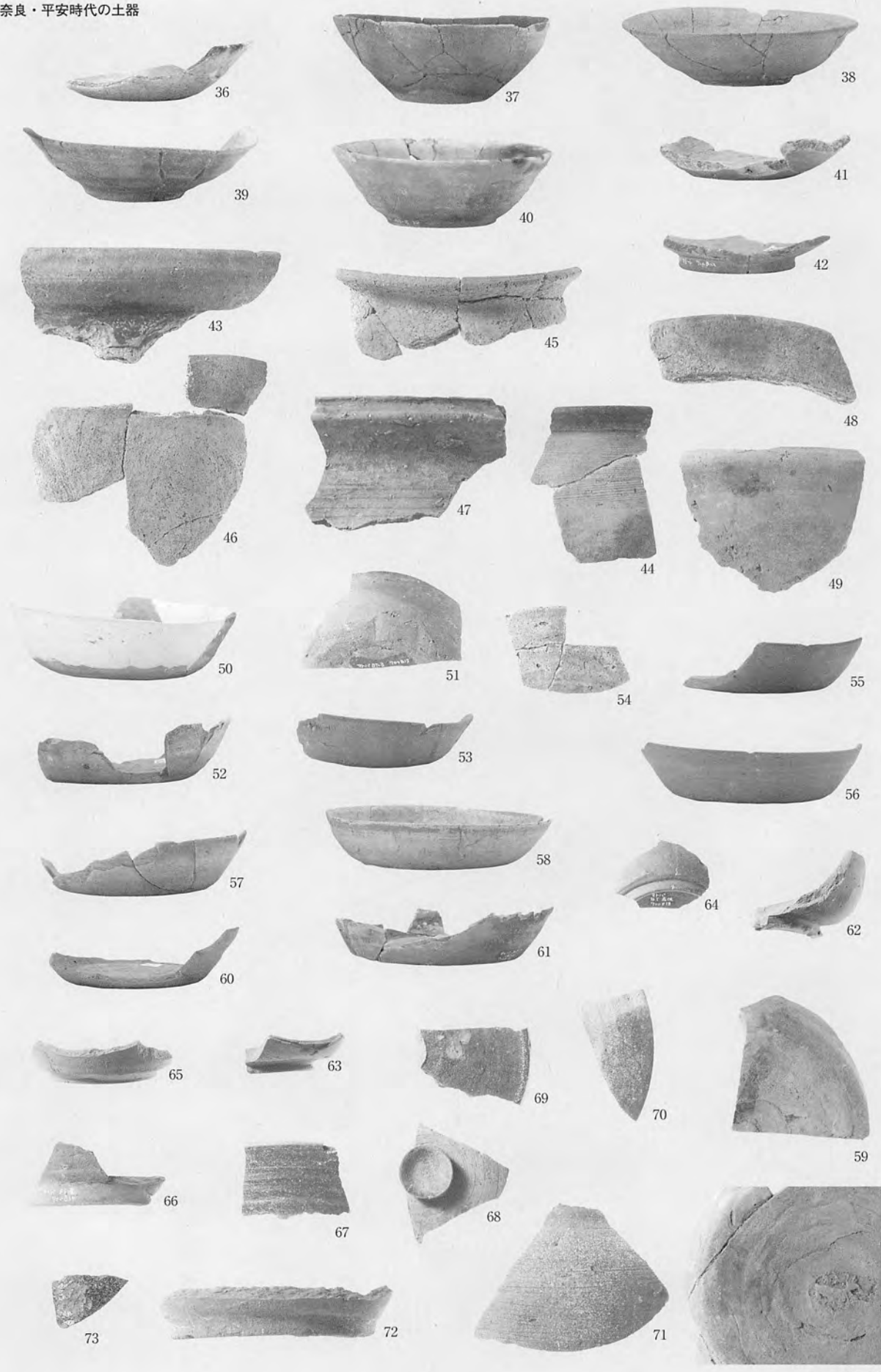
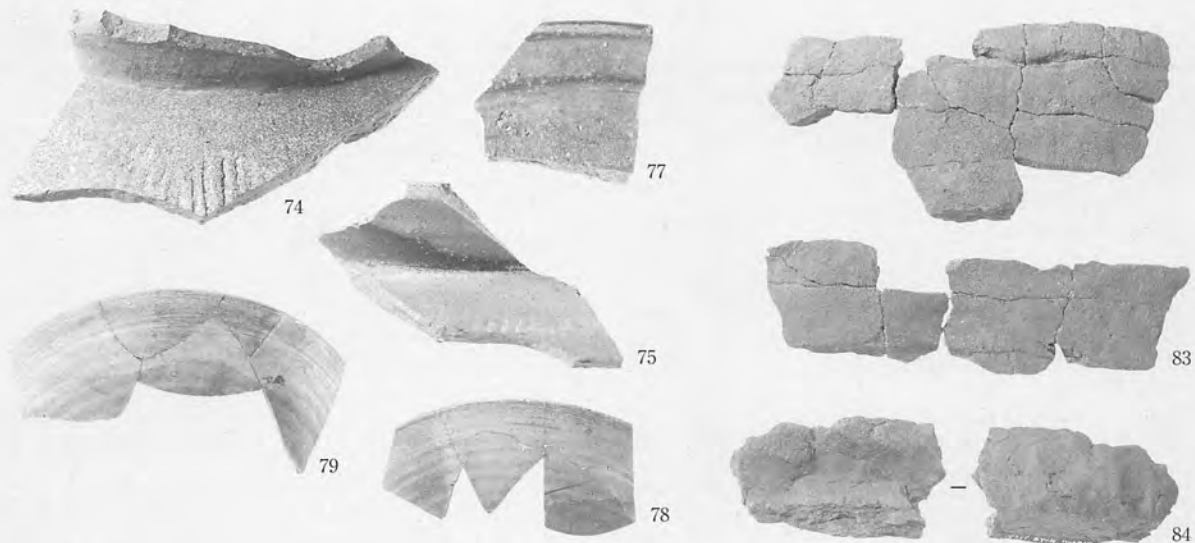
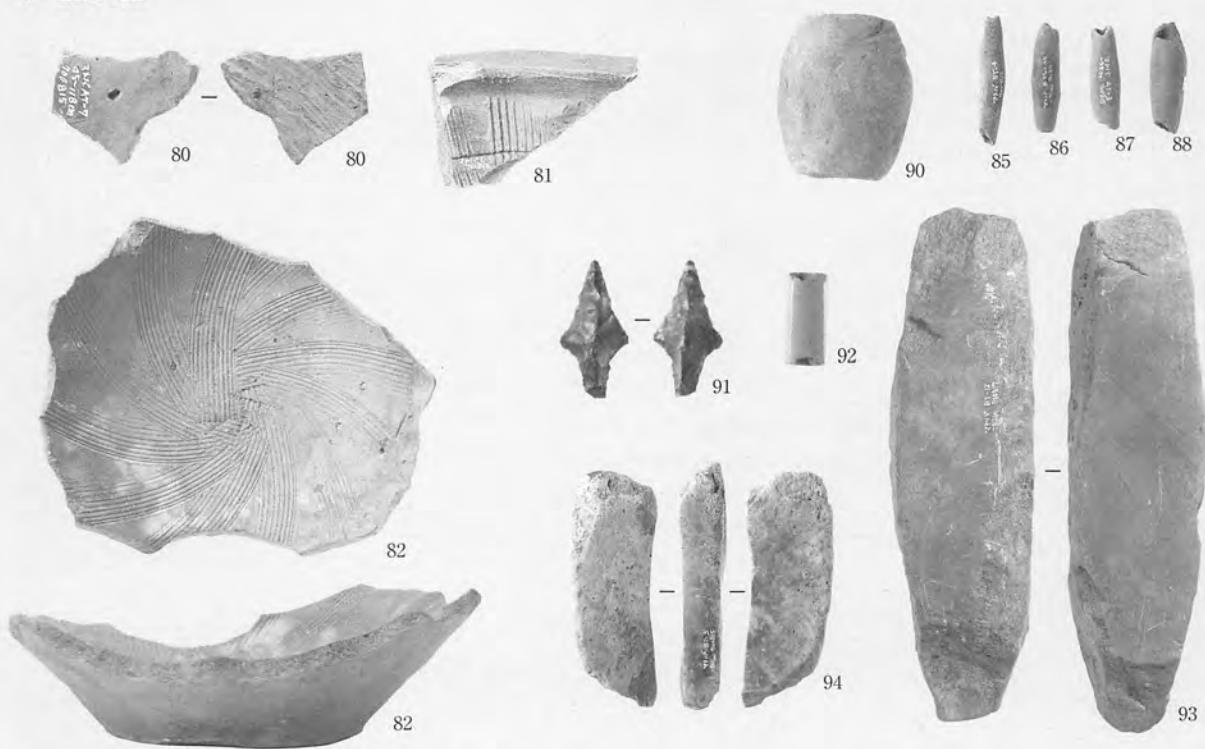


写真30 出土遺物2 (番号及び縮尺は実測図と同じ)

奈良・平安時代の土器



中・近世の陶器



鍛冶関連遺物

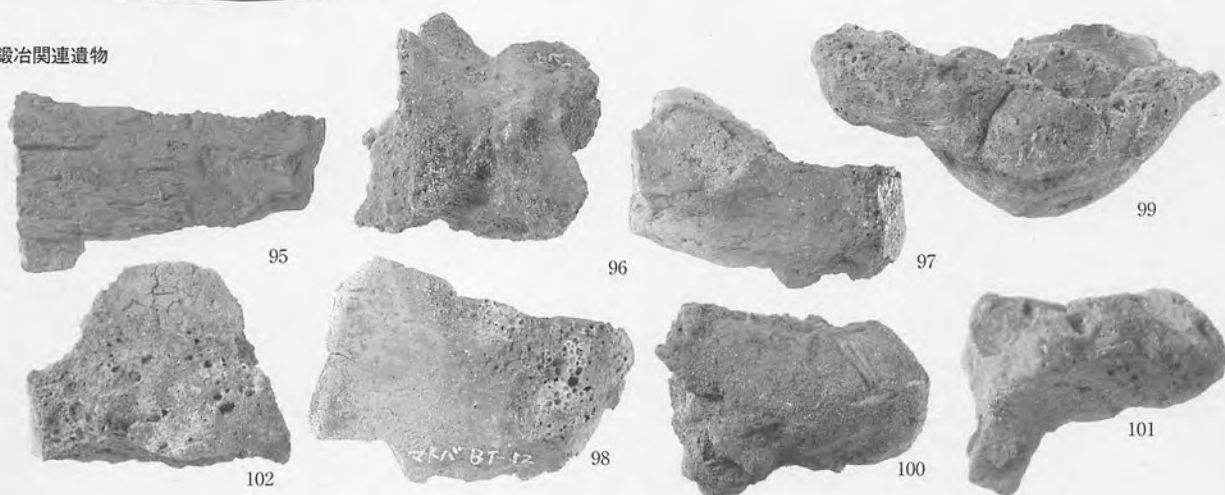


写真31 出土遺物 3 (95~101は S = 1/2、その他番号及び縮尺は実測図と同じ)

Ⅳ 受領図書一覧

(平成14年3月1日～平成15年3月31日受領分)

都道府県	書名	発行機関
北海道	平成12年度 旭川市博物館要覧 (平成13年度版)	旭川市博物館
	平成12年度 旭川市博物館研究報告 第6号～第8号	〃
青森	大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書	青森市教育委員会
	市内遺跡発掘調査報告書	〃
	小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅶ	〃
	いにしえ青森 vol.10	〃
	稲山遺跡発掘調査報告書Ⅱ	〃
	稲山遺跡発掘調査概報Ⅳ	〃
秋田	平成13年度 秋田城跡調査概報	秋田市教育委員会
	秋田城跡政庁跡	〃
福島	会津若松市文化財調査報告書第73号・第74号	会津若松市教育委員会
	福島市埋蔵文化財報告書第95集・第131集・第132集・第134集～第140集・第142集～第160集 月崎A遺跡(第6・16・18～26次調査) -飯坂南部土地区画整理事業関連遺跡調査報告V	㈲福島市振興公社
	平成10年度発掘調査概報 平窪諸荷遺跡	㈲いわき市教育文化事業団
	文化財ニュースいわき 第59号	〃
	第9回東日本埋蔵文化財研究会 東日本弥生時代後期の土器編年(抜粋)	〃
	市道大町大槻線改良工事関連 清水内遺跡(第5次) -発掘調査報告-	郡山市教育委員会
	阿久津館跡 -発掘調査報告-	〃
	県道小野郡山線改良工事関連 宮ノ脇遺跡 -第5次発掘調査報告-	〃
	市道牛庭大槻線改良工事関係 白旗遺跡・転沢遺跡 -発掘調査報告-	〃
	郡山南拠点土地区画整理事業関連 荒井猫田遺跡Ⅱ区 -第14次発掘調査報告-	〃
	阿武隈川築堤関連 築場遺跡・菅屋敷遺跡・町A遺跡	〃
	清水台遺跡 -第22次調査報告-	〃
	郡山市埋蔵文化財分布調査報告9	〃
	第8回市内遺跡発掘調査成果展図録 企画展 郡山の古墳時代	〃
茨城	史跡 土浦城跡	上高津貝塚ふるさと歴史の広場
	常名台遺跡群確認調査 神明遺跡(第3次調査)	〃
	二又遺跡	〃
	第8回企画展 きらめく土器と縄文集落 パンフレット	〃
	二又遺跡 -ミニゴルフ場造成工事に伴う埋蔵文化財調査報告書-	〃
	木田余台Ⅱ -土浦市木田余台土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書-	〃
	東中根遺跡群発掘調査報告書	ひたちなか市埋蔵文化財調査センター
	玉里村立史料館第7号	玉里村立史料館
	玉里の遺跡 -旧石器～古代編-	〃
	平成14年度特別展図録 霞ヶ浦の縄文土器	〃
栃木	埋蔵文化財センター年報 第11号(平成13年度版)	栃木県教育委員会
	栃木県埋蔵文化財調査報告書第244集・第248集・第250集・第252集～第254集・第259集～第267集	〃
	研究紀要 第10号	㈲とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター
	やまかいどう 31号	〃
	埋蔵文化財センター年報 第12号(平成14年度版)	栃木県教育委員会
群馬	渋川市埋蔵文化財発掘調査報告書第68集・第69集・第73集・第74集	渋川市教育委員会
	中筋遺跡保存整備事業報告書	〃
	群馬町埋蔵文化財調査報告書第55集・第58集・第59集～第62集	群馬町教育委員会
	㈲群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第287集 長野原一本松遺跡(1) ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1集	㈲群馬県埋蔵文化財調査事業団
東京	平成12年度葛飾区埋蔵文化財調査年報	葛飾区教育委員会
	葛飾区遺跡調査会調査報告第49集・第50集	〃
	発掘調査報告書 真人原遺跡Ⅲ	東京都立大学人文学部考古学研究室
	人類誌集報2001	〃
	考古学論究 第8号	立正大学考古学研究室
新潟	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成13年度	㈲新潟県埋蔵文化財調査事業団
	新潟県埋蔵文化財調査報告書第108集～第112集・第113集・第115集～第117集	〃
	埋文にいがた 第39号～第41号	〃

都道府県	書名	発行機関
新潟	よみがえる青田遺跡 資料集 川辺の縄文集落	新潟県埋蔵文化財調査事業団
	相川町埋蔵文化財調査報告書第6 佐渡金山遺跡(佐渡奉行所跡) 国史跡佐渡奉行所跡復原整備に伴う発掘調査報告書	相川町教育委員会
	朝日村文化財報告書第19集 山口遺跡	朝日村教育委員会
	斐太歴史の里確認調査概要報告書	新井市教育委員会
	新井市民俗芸能調査報告書	〃
	粟原遺跡第12次・13次発掘調査報告書	〃
	田中前2遺跡発掘調査概要報告書	〃
	平成13年度 新井市遺跡確認調査報告書	〃
	荒川町埋蔵文化財発掘調査報告書第7集・第8集	荒川町教育委員会
	板倉町埋蔵文化財調査報告書第3集 田井国分寺遺跡-県道上越飯山線道路改修事業に伴う発掘調査報告書-	板倉町教育委員会
	糸魚川市埋蔵文化財調査報告書34~40	糸魚川市教育委員会
	国・史跡 長者ヶ原遺跡~保存整備事業報告書~	〃
	柏崎市埋蔵文化財調査報告書第35集~第37集	柏崎市教育委員会
	第17回全国天領ゼミナール記録集	金井町教育委員会
	神林村埋蔵文化財調査報告第10 城田遺跡	神林村教育委員会
	民俗資料館だより 第9号	加茂市民俗資料館
	京ヶ瀬村埋蔵文化財発掘調査報告書第1集 町道上遺跡発掘調査報告書	京ヶ瀬村教育委員会
	史跡 奥山荘城館遺跡 黒川城・蔵王権現遺跡・臭水油坪整備基本構想書	黒川村教育委員会
	平成13年度概要報告書 分谷地A遺跡	〃
	小出町埋蔵文化財発掘調査報告書第1集 小出町佐梨居平遺跡 小出町立佐梨保育所改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	小出町教育委員会
	小須戸町の文化財	小須戸町教育委員会
	小須戸町文化財調査報告(1)・(2)	〃
	五泉市文化財報告(6) 大蔵遺跡学術調査報告書 大蔵遺跡	五泉市教育委員会
	栄町文化財調査報告書第8輯・第9輯	栄町教育委員会
	二ッ割遺跡 中住吉遺跡発掘調査概要報告書	紫雲寺町教育委員会
	塩沢町文化財報告書第20輯 来清西遺跡-県道建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-	塩沢町教育委員会
	新発田市埋蔵文化財発掘調査報告書第23・24	新発田市教育委員会
	芦ヶ崎西平遺跡調査報告書	津南町教育委員会
	下モ原Ⅲ遺跡発掘調査報告書	〃
	町内遺跡確認試掘調査報告書	〃
	天狗寺遺跡調査報告書	〃
	十日町市教育委員会文化財課年報6 平成13年度	十日町市教育委員会
	十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書第21集 十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書	〃
	弥生時代後期~古墳時代前期における北陸北東部系土器の地域色研究	長岡高専 川村浩司研究室
	長岡市史資料編1 考古	長岡市立中央図書館
	中郷村埋蔵文化財調査報告書第13集 大久保遺跡発掘調査報告書	中郷村教育委員会
	大塚遺跡第2次	中条町教育委員会
	船戸川崎遺跡4次	〃
	船戸桜田遺跡4・5次 船戸川崎遺跡6次	〃
	新潟考古 第13号	新潟考古学会
	内野遺跡発掘調査報告書	新津市教育委員会
	沖ノ羽遺跡発掘調査報告書	〃
	寺道上遺跡発掘調査報告書	〃
	中谷内遺跡発掘調査報告書Ⅱ	〃
	無頭遺跡発掘調査報告書	〃
	見附市市内遺跡範囲確認調査報告書第14	見附市教育委員会
	高平遺跡発掘調査報告書	村上市教育委員会
	村上城跡二之町地区発掘調査報告書	〃
	和島村埋蔵文化財調査報告書第11集 奈良崎遺跡Ⅱ	和島村教育委員会
	富山	所報 埋文とやま第78号
松倉城壘群発掘調査報告Ⅰ		魚津市教育委員会
富山県舟橋村 竹内東芦原遺跡発掘調査報告		舟橋村教育委員会
清水島Ⅱ遺跡・中名Ⅱ遺跡・持田Ⅰ遺跡発掘調査報告-公害防除特別土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅰ-		富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
石名田木舟遺跡発掘調査報告-能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅲ-		〃
富山市考古資料館報 No.39		富山市考古資料館
埋蔵文化財センター所報 No.3 富山市の遺跡物語		〃
富山市考古資料館紀要 第20号・第21号		〃
富山市中富居遺跡発掘調査報告書-大型ショッピングセンター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告-		富山市教育委員会
富山市水橋荒町遺跡発掘調査概要Ⅱ		〃
(仮称)富山西インターチェンジ関連埋蔵文化財発掘調査報告書(2) 境野新遺跡・向野池遺跡		〃
富山市北代西山遺跡発掘調査報告書		〃
富山市内遺跡発掘調査概要Ⅳ 御坊山遺跡		〃

都道府県	書名	発行機関	
富山	主要地方道富山戸出小矢部線宅地関連道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 富山市中老田C遺跡発掘調査報告書	富山市教育委員会	
	分譲宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 富山市四方北窪遺跡	〃	
	県営農道整備事業呉羽西地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 富山県富山市東老田II遺跡	〃	
	県営低コスト水田農業大区画ほ場整備事業(清水堂地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査概要(5) 富山市水橋清水堂南遺跡	〃	
	(仮称)富山西インターチェンジ建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要(1) 富山市向野池遺跡	〃	
	県営新生産調整推進排水対策特別事業諏訪川地区に伴う埋蔵文化財発掘調査概要 富山市針原中町II遺跡発掘調査概要	〃	
	富山市埋蔵文化財調査報告107・109・110～113・115～117・119～124	〃	
	能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告-NEJ-13・NEJ-14・NEJ-220・NEJ-21・中尾坊田遺跡・中尾新保谷内遺跡-	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所	
	埋蔵文化財調査概要-平成13年度-	〃	
	紀要 富山考古学研究 第5号	〃	
	埋蔵文化財年報(13) 平成13年度	〃	
	中山中遺跡発掘調査レポート	〃	
	富山県埋蔵文化財センター 平成12年度年報	富山県埋蔵文化財センター	
	展示図録 生と死の祈り	〃	
	こども考古学ラボ展示図録	〃	
	所報 埋文とやま第80号	〃	
	富山県大島町 北高木遺跡発掘調査報告書	大島町教育委員会	
	舟橋村埋蔵文化財調査報告書8 富山県舟橋村 古海老江遺跡発掘調査報告書-宅地造成に伴う発掘調査報告-	舟橋村教育委員会	
	石川	金沢市文化財紀要179～187	金沢市埋蔵文化財センター
		ニッ梨一貫山窯跡-日本自動車博物館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-	小松市教育委員会
金沢市金沢城跡I (三ノ丸第2次調査・新丸第2次調査)金沢公園園地整備事業に係る埋蔵文化財報告書I		財団法人石川県埋蔵文化財センター	
金沢市梅田B遺跡I 一般国道8号線金沢東部環状道路事業に係る埋蔵文化財報告書1		〃	
金沢市藤江B遺跡IV 金沢西部地区土地区画整理事業に係る埋蔵文化財報告書11		〃	
金沢市田中遺跡 一般国道8号金沢地区環境対策工事に係る埋蔵文化財報告書		〃	
金沢市高岡町一ツ水溜跡 一般国道157号香林坊キャブ事業に係る埋蔵文化財報告書		〃	
金沢市前田氏(長種系)屋敷跡 国家公務員共済組合連合会金沢共済会館改築に係る埋蔵文化財報告書		〃	
金沢市南新保C遺跡 金沢西部地区土地区画整理事業に係る埋蔵文化財報告書14		〃	
小松市矢崎宮の下遺跡 県営ほ場整備事業(木場潟西部地区矢崎工区)に係る埋蔵文化財調査報告書		〃	
小松市三谷大谷遺跡 一般国道8号線小松バイパス改築工事に係る埋蔵文化財調査報告書		〃	
小松市大長野A遺跡 県営ほ場整備事業(一針地区第1工区)に係る埋蔵文化財調査報告書		〃	
加賀市吸坂・黒瀬古墳群 吸坂E1号墳・黒瀬御坊A古墳群付黒瀬1号窯)一般国道8号改築工事(南郷拡幅)に係る埋蔵文化財調査報告書		〃	
加賀市片山津玉造遺跡 用排水施設整備事業[片山津丘陵第2地区)に係る埋蔵文化財調査報告書		〃	
加賀市柴山貝塚・柴山出村遺跡 県営ほ場整備事業(柴山湖台地区)に係る埋蔵文化財調査報告書		〃	
田鶴浜町大津くろだの森遺跡 一般国道470号線(能越自動車道)道路改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書VI		〃	
シンポジウムの記録 古代北陸道に掲げられたお触れ書き		〃	
年報3(平成12年度)		〃	
石川県埋蔵文化財情報 第7号		〃	
いしかわの遺跡 第10号～第13号		〃	
金沢城跡を掘る 2000		〃	
金沢市木ノ新保遺跡 北陸新幹線金沢駅緊急整備事業に係る埋蔵文化財調査報告書		〃	
金沢市戸水B遺跡II 金沢西部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書15		〃	
金沢市藤江C遺跡IV・V 金沢西部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書12		〃	
金沢市藤江C遺跡VII 金沢西部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書13		〃	
金沢市経王寺遺跡 都市計画道路小立野鈴見線街路事業に係る発掘調査報告書		〃	
松任市橋爪ガンノアナ遺跡・橋爪B遺跡 県営ほ場整備事業(中興地区橋爪工区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書		〃	
小松市一針B遺跡・一針C遺跡 県営ほ場整備事業(一針地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書		〃	
加賀市猫橋遺跡 一般農道整備事業(加賀中央地区)・農免農道整備事業(八日市地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書		〃	
宇ノ気町指江遺跡・指江B遺跡 農村活性化住環境整備事業(宇ノ気南部地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書		〃	
中島町中島ヤマタン25号墳 県営ほ場整備事業(中島地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書		〃	
七尾市千野古墳群調査報告書		石川県教育委員会	
漆町遺跡III		〃	
御経塚シンデン遺跡・御経塚シンデン古墳群		野々市町教育委員会	
下新庄アラチ遺跡		〃	
末松A遺跡・末松しりわん遺跡		〃	
本町・横川遺跡		〃	
富樫館跡畑土居地区・富樫館跡鬼ヶ窪地区	〃		
福井	金沢大学考古学紀要 26号	金沢大学考古学研究室	
	若狭小浜城跡II	小浜市教育委員会	
静岡	興道寺古墳群 県営中山間地域総合整備事業美方地区に伴う発掘調査報告	美浜町教育委員会	

都道府県	書名	発行機関
静岡	宇東川遺跡L地区 今泉4丁目宅地分譲地造成に先立つ埋蔵文化財発掘調査報告書 富士市埋蔵文化財発掘調査報告書-第6集-	富士市教育委員会
	東平遺跡 第16地区(三日月庵寺跡)・第27地区発掘調査報告書	〃
	中吉原宿遺跡 中吉原宿遺跡第5地区詳細確認調査報告書	〃
	静岡市埋蔵文化財調査報告書53・56・58・60・61	静岡市教育委員会
	ふちゅーる10 平成12年度 静岡市文化財年報	〃
愛知	豊田市郷土資料館だより Na39	豊田市郷土資料館
	豊橋市埋蔵文化財調査報告書第59集～第68集	〃
	見晴台考古資料館年報19 2001(平成13)年度事業報告	名古屋見晴台考古資料館
	見晴台教室 '01	〃
	特別展図録「なごやの遺跡～笠寺台地～」	〃
	名古屋見晴台考古資料館研究紀要 第4号	〃
	名古屋市文化財調査報告書53～56 埋蔵文化財調査報告書40～43	〃
	富士見町遺跡第5次・白川公園遺跡第4次	〃
	天白元屋敷遺跡第4次発掘調査概要報告書	〃
	埋蔵文化財発掘調査報告書 貞養院遺跡	〃
	高蔵遺跡 共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	〃
	千音寺遺跡(北宮田団地)発掘調査報告書	〃
	千音寺遺跡 下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	〃
豊田市郷土資料館だより Na41・Na42	豊田市郷土資料館	
大阪	泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 平成12年度	泉佐野市教育委員会
	泉佐野市埋蔵文化財発掘調査報告61 若宮・上町東遺跡	〃
	河内長野市文化財調査報告書第33輯 第34輯～第36輯	河内長野市教育委員
	河内長野市文化財情報誌 仁深野 Na10	〃
	河内長野市遺跡調査報告XXV・XXVII・XXIX	河内長野市遺跡調査会
	河内長野市文化財情報誌仁深野 Na11	〃
	近木郷を考古学する-役所・寺・街道-	貝塚市教育委員会
	貝塚市の指定文化財-平成9～13年度指定-	〃
	貝塚市埋蔵文化財調査報告第59集～第62集	〃
	平成14年度貝塚市郷土資料展示室特別展「ト半斎了珍と貝塚寺内-願泉寺初代ト半斎了珍没後400回御遠忌記念-」	〃
奈良	埋蔵文化財ニュース109・110	奈良文化財研究所埋蔵文化財センター
兵庫	赤穂市文化財調査報告書48・52～55	赤穂市教育委員会
	尼崎市埋蔵文化財調査年報 平成7年度(2)-大物遺跡第1次調査概要 その1-	尼崎市教育委員会
	尼崎市埋蔵文化財調査年報 平成7年度(3)-大物遺跡第1次調査概要 その2-	〃
	平成10年度国庫補助事業 尼崎市内遺跡復旧・復興事業に伴う発掘調査	〃
	尼崎市埋蔵文化財 遺跡分布地図及び手引き(平成14年度版)	〃
岡山	岡山市埋蔵文化財センター年報1(平成12年度)	岡山市教育委員会
	岡山城三之曲輪跡 -表町一丁目地区再開発ビル建設に伴う発掘調査-	〃
	新道遺跡 -備前国鹿田庄関連遺跡の発掘調査報告-	〃
	岡山市遺跡地図 -岡山市埋蔵文化財分布図	〃
	木工芸さしもの(岡山市重要無形文化財木工芸(指物)技術記録保存事業報告)	岡山市埋蔵文化財センター
	徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第31集 徳島県新蔵町3丁目遺跡出土動物遺存体(新蔵町3丁目遺跡徳島保健所地点抜刷)	岡山理科大学理学部助教授 富岡直人氏
	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第59集 具同中山遺跡群IV出土動物遺存体及び土壌の分析(具同中山遺跡群IV-別刷2001)	〃
	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告162 高松田中遺跡出土動物遺存体の分析(服部遺跡・北薄手遺跡・窪木遺跡・高松田中遺跡2002年岡山県教育委員会刊抜刷)	〃
遺存体データベースからみた縄文・弥生時代生業構造の変化 平成8年度～平成10年度科学研究費補助金研究成果報告書	〃	
広島	尾道市埋蔵文化財調査報告第30集 尾道遺跡-尾道市公共土木工事計画に伴う発掘調査報告-2001	尾道市教育委員会
	尾道市内遺跡-尾道遺跡ほか埋蔵文化財調査概要-2000年度	〃
	名勝 浄土寺庭園保存処理報告書	〃
山口	研究紀要 第6号	下関市立考古博物館
	下関市立考古博物館年報 第7号(平成13年度)	〃
	あやらぎ 博物館だより Na7	〃
徳島	徳島県埋蔵文化財センター調査報告第26集～第29集・第34集～第36集・第38集～第43集	徳島県埋蔵文化財センター
福岡	筑穂町文化財調査報告書第7集 上穂波遺跡群4	筑穂町教育委員会
	史跡下高橋官衙遺跡周辺遺跡1 大刀洗町文化財調査報告書第22集	大刀洗町教育委員会
	高樋小道遺跡 大刀洗町文化財調査報告書第23集	〃
	国史跡 下高橋官衙遺跡はどんな遺跡	〃
佐賀	鎮西町文化財調査報告書第20集 北条氏盛陣跡	鎮西教育委員会
	佐賀市文化財調査報告書第127集～第139集	佐賀市教育委員会

抄 録

ふりがな	へいせいじゅうよねん（にせんに）ねんどにいがたしまいぞうぶんかざいちょうさねんぼう								
書名	平成14（2002）年度新潟市埋蔵文化財調査年報								
副書名									
編著者名	渡邊ますみ 廣野耕造 諫山えりか 朝岡政康 森良子 土佐夕美子								
編集機関	新潟市総務局国際文化部埋蔵文化財センター								
所在地	〒950-3101 新潟県新潟市太郎代2554番地 電話・FAX 025-255-2006								
発行年月日	平成15年3月31日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
内野戸中才地区	新潟県新潟市内野戸中才1472ほか	15201	-	37度50分57秒	138度56分39秒	20020423～ 20020426	198	宅地開発事業	
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物				特記事項	
内野戸中才地区	-	-	-	-					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
緒立B遺跡	新潟県新潟市黒島字川根湯5355番1	15201	115	37度51分23秒	138度59分15秒	20020422	10.8	個人住宅建設	
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物				特記事項	
緒立B遺跡	遺物包蔵地	縄文・古墳・奈良・平安	-	-					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
病院脇遺跡	新潟県新潟市赤塚字上谷内5588番地	15201	65	37度49分00秒	138度52分46秒	20020805～ 20020807	60	病院建設	
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物				特記事項	
病院脇遺跡	遺物包含地	平安	-	-					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
鳥屋野遺跡	新潟県新潟市鳥屋野字上中沢550-2ほか	15201	79	37度52分59秒	139度1分36秒	20030319	20	保育園建設	
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物				特記事項	
鳥屋野遺跡	遺物包含地	中世	-	-					

平成14(2002)年度
新潟市埋蔵文化財調査年報

発行日 平成15年3月26日
発行 新潟市埋蔵文化財センター
〒950-3101 新潟市太郎代2554番地
電話・FAX 025(255)2006

印刷 (有)太陽印刷所
〒950-0985 新潟市和合町2丁目4番18号
電話 025(382)7651